

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患政策研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究

令和5年度 総括研究報告書

研究代表者 関島 良樹

令和6（2024）年 5月

目 次

【I】	総括研究報告	
	アミロイドーシスに関する調査研究	----- 1
	研究代表者 関島 良樹	
【II】	研究成果の刊行に関する一覧表	
	書籍	----- 20
	雑誌	----- 22

厚生労働科学研究費（難治性疾患政策研究事業）
（総括）研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 関島 良樹 信州大学医学部 教授

研究要旨 われわれは令和 5～7 年度に及ぶ本研究計画で、(1)アミロイドーシス診療ガイドライン案を完成させた。(2)全国 10 施設でカスタム抗体を共有し、病理コンサルテーション体制を運用した。さらに、全国の施設で病型診断を可能にするためのウサギモノクローナル抗体の作成に着手した。また、診療・治療コンサルテーションを立ち上げ、専門家が対応した。(3)『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究』の登録開始以来、計 2612 症例（昨年比+1064）の登録を終えた。さらに、レジストリの品質管理や信頼性保証を向上させるために、体制図、データフロー図、ユーザ教育およびそれに伴うユーザ管理の手順書、データマネジメント業務手順書、データ入力の品質管理に関する手順書、入力マニュアルを作成した。また、PMDA の「リアルワールドデータ活用促進事業 連携 B」に応募し採択された。(4)ATTR アミロイドーシスおよび AL アミロイドーシスの患者会・講演会、アミロイドーシス市民公開講座を開催した。(5)AMED 植田班，遠藤班，真下班との連携を行った。

研究分担者

内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門・
教授
植田 光晴 熊本大学大学院生命科学研究部・
教授
島崎 千尋 京都鞍馬口医療センター医局・
名誉院長
飯田 真介 名古屋市立大学医薬学総合研究院
(医学)・教授
小池 春樹 佐賀大学医学部・教授
星野 純一 東京女子医科大学医学部・教授
山田 俊幸 自治医科大学医学部・教授
奥田 恭章 道後温泉病院内科・院長
小野賢二郎 金沢大学医薬保健研究域医学系・
教授
北岡 裕章 高知大学教育研究部医療学系臨床
医学部門・教授
田原 宣広 久留米大学医学部・教授
遠藤 仁 慶應義塾大学医学部・専任講師
大橋 健一 東京医科歯科大学大学院医歯学総
合研究科・教授

畠山 金太 国立循環器病研究センター病院病
理部・部長
鈴木 憲史 日本赤十字社医療センター骨髄腫
アミロイドーシスセンター・顧問
河野 和 熊本大学大学院生命科学研究部・
助教
山本 卓 新潟大学医歯学総合病院血液浄化
療法部・准教授
坂井 健二 上越総合病院神経内科・部長
猪又 孝元 新潟大学大学院医歯学総合研究科
循環器内科学・教授
三木 浩和 徳島大学病院・講師
加藤 修明 信州大学医学部・准教授(特定)

A. 研究目的

われわれは令和 5～7 年度に及ぶ本研究計画で、
(1)アミロイドーシスの診療ガイドラインを作成
し、学会承認、出版、無料一般公開すること、
(2)病理コンサルテーション体制を中心とするア
ミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展
させること、(3)PMDA および関連学会と連携し

別紙3

て難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施するとともにその品質管理・信頼性を向上し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(4)非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施すること、(5)AMED 研究と連携し、アミロイドーシスの研究を促進すること、の5項目を目指す。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)~(3)の各項目は、第1回研究班会議（令和5年7月25日、ウェブ開催）、第2回研究班会議（令和6年2月20日、ウェブ開催）、および各ワーキンググループで随時開催するウェブ会議で議論・決定した。(4)は研究分担者の植田、鈴木、北岡を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(2)に関し、個人情報保護には最新の注意を払った。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与えた。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た。これを基に病理ワーキンググループ各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計した。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しなかった。(3)に関し、に関し、京都大学医の倫理審査委審査を受審し承認を得た。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】

(1) 本研究班のワーキンググループで編集委員会を組織し、執筆項目、Clinical Question、執筆担当者を決定し、診療ガイドライン案を完成させた。

(2) 全国10施設でカスタム抗体を共有し、病理コンサルテーション体制を運用した。2018年4月より2023年11月までの68ヶ月間で、8539件コンサルテーションを受け付け、プロテオーム解析と合わせ6484件の病型を確定した。直近1年間では2373件（昨年比+292件）のコンサルテーションを受け付け、1706件（昨年比+367件）の病型を確定した。さらに、全国の施設で病型診断を可能にするためのウサギモノクローナル抗体の作成に着手し、感度・特異度の高い抗TTR抗体の作成に成功した。また、研究班ホームページ上で診療・治療コンサルテーションを立ち上げ、コンサルテーションに対し、それぞれの分野の専門家が対応した。

(3)『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究』の登録開始以来、ALアミロイドーシス137例、ATTRvアミロイドーシス205例、ATTRwtアミロイドーシス2270症例、計2612症例（昨年比+1064）の登録を終えた。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、現在、日本循環器学会認定124施設が参加している。さらに、リアルワールドデータ利活用のための品質管理や信頼性保証を向上させるために、①体制図、データフロー図、②ユーザ教育およびそれに伴うユーザ管理の手順書、③データマネジメント業務手順書、④データ入力の品質管理に関する手順書と⑤入力マニュアルを作成した。また、PMDAの「リアルワールドデータ活用促進事業」説明会に参加しアンケート調査に協力した後、「連携B」に応募し採択された。

(4) 熊本大学神経内科（植田光晴班員）が中心となり、熊本にて「道しるべの会」（家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会を実施した（6月18日、荒尾市、参加者46名）。高知にて高知大学老年病・循環器内科（北岡裕章班員）主催、本研究班および日本アミロイドーシス学会共催で、アミロイドーシスの市民公開講座

別紙3

を開催した（9月23日、高知市、参加者48名）。日本赤十字医療センター（鈴木憲史班員）が中心となり、ALアミロイドーシスセミナーを実施した（10月29日、ウェブ、参加者120名、オンデマンド視聴120回）。

(5) AMED 植田班、遠藤班、真下班との連携し、ATTRアミロイドーシスの病態解明、バイオマーカー開発、ゲノム編集薬開発研究を行った。

D. 考察

(1) アミロイドーシス診療は2019年以降、診断基準の改訂、核酸医薬のATTRアミロイドーシスに対する認可、CD38抗体薬のALアミロイドーシスに対する認可など大きな変革を遂げているが、診療ガイドラインは、2017年以降改訂されていない。現在作成中の診療ガイドラインは、最新の情報をアップデートした内容に構成されている。また2017年のガイドラインは関連学会の承認を得ておらず、無料公開もされていないが、今回のガイドラインは関連学会の承認およびPDF版の無料公開を予定しており、全国の医師の診療に役立つと期待される。

(2) 我々のアミロイドーシス診断体制は、全国の新規患者を網羅した悉皆性の高いコンサルテーション体制であると判断できる。現在開発中のウサギモノクローナル抗体の開発により、全国のどの施設でもアミロイドーシスの病型診断が可能になることが期待される。

(3) 『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究』は、レジストリに症例が順調に蓄積されるとともに、品質管理や信頼性保証を向上する取り組みを行っており、今後薬事承認などに利活用されることが期待できる。

E. 結論

アミロイドーシス診療ガイドラインの原稿案を作成し、令和6年度に関連学会の承認を得て出版予定である。全国10施設でカスタム抗体を共有し病型診断コンサルテーションを運用すると

ともに、新規のウサギモノクローナル抗TTR抗体を開発した。また、診療・治療コンサルテーションを立ち上げ、専門家が対応した。『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究』の登録開始以来、計2612症例（昨年比+1064）の登録を終えた。熊本にて「道しるべの会」（FAP患者・家族会）を開催した。ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナーをウェブ開催した。高知で公開市民講座「アミロイドーシスを識ろう」を開催した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

関島 良樹

- 1) Adams D, Sekijima Y, Conceição I, Waddington-Cruz M, Polydefkis M, Echaniz-Laguna A, Reilly MM. Hereditary transthyretin amyloid neuropathies: advances in pathophysiology, biomarkers, and treatment. *Lancet Neurol* 22 (11) :1061-1074,2023.
- 2) Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Planté-Bordeneuve V, Berk JL, González-Duarte A, Gillmore JD, Low SC, Sekijima Y, Obici L, Chen C, Badri P, Arum SM, Vest J, Polydefkis M; HELIOS-A Collaborators. Efficacy and safety of vutrisiran for patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: a randomized clinical trial. *Amyloid* 30 (1) :1-9,2023.
- 3) Ando Y, Waddington-Cruz M, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Konishi H, Ishii T, Coelho T. Optimal practices for the management of hereditary transthyretin amyloidosis: real-world experience from Japan, Brazil, and Portugal. *Orphanet. J Rare Dis* 18 (1) :323,2023.
- 4) Beck G, Yonenobu Y, Kawai M, Ikenaka K, Sera F, Ozono T, Shimada Y, Yamashita R, Sakata Y, Morii E, Yoshinaga T, Ando Y, Murayama S, Mochizuki H. RNA interference in late-stage hereditary transthyretin amyloidosis: a clinicopathological study. *J Neurol* 270

- (9) :4544-4548,2023.
- 5) Fuchida S, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C. A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee. *Int J Hematol* 118 (4) :443-449,2023.
 - 6) Kitahara J, Yoshinaga T, Kakihara S, Hirano T, Imai A, Miyahara T, Yazaki M, Sekijima Y, Murata T. Ocular findings in patients with acquired ATTRv amyloidosis following domino liver transplantation. *PLoS One* 18(9): e0291716,2023.
 - 7) Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y. Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Nucl Cardiol* 30(1):403-404,2023.
 - 8) Maurer MS, Kale P, Fontana M, Berk JL, Grogan M, Gustafsson F, Hung RR, Gottlieb RL, Damy T, González-Duarte A, Sarswat N, Sekijima Y, Tahara N, Taylor MS, Kubanek M, Donal E, Palecek T, Tsujita K, Tang WHW, Yu WC, Obici L, Simões M, Fernandes F, Poulsen SH, Diemberger I, Perfetto F, Solomon SD, Di Carli M, Badri P, White MT, Chen J, Yureneva E, Sweetser MT, Jay PY, Garg PP, Vest J, Gillmore JD; APOLLO-B Trial Investigators. Patisiran. Treatment in Patients with Transthyretin Cardiac Amyloidosis. *N Engl J Med* 389(17):1553-1565,2023.
 - 9) Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. *Amyloid* 30(3):321-326,2023.
 - 10) Oguchi K, Katoh N, Mochizuki Y, Takahashi Y, Ueno A, Takasone K, Sekijima Y. Reduction of cardiac AL amyloid deposition after complete response visualised by PiB-PET imaging. *Amyloid* 30(1):138-139,2023.
 - 11) Sato M, Mochizuki Y, Takahashi Y, Takasone K, Aldinc E, Ticau S, Jia G, Sekijima Y. Neurofilament light chain as a biomarker for monitoring response to change in treatment in hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* 30(3):351-352,2023.
 - 12) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA. *Ann Hematol* 102(4):863-876,2023.
 - 13) Takahashi Y, Oguchi K, Mochizuki Y, Takasone K, Ezawa N, Matsushima A, Katoh N, Yazaki M, Sekijima Y. Distribution and progression of cerebral amyloid angiopathy in early-onset V30M (p.V50M) hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* 30(1):109-118,2023.
 - 14) Tsai FJ, Nelson LT, Kline GM, Jäger M, Berk JL, Sekijima Y, Powers ET, Kelly JW. Characterising diflunisal as a transthyretin kinetic stabilizer at relevant concentrations in human plasma using subunit exchange. *Amyloid* 30(2):220-224,2023.
 - 15) Uehara M, Kuraiishi S, Ikegami S, Oba H, Takizawa T, Munakata R, Hatakenaka T, Kamanaka T, Miyaoka Y, Sekijima Y, Takahashi J. Cervical myelopathy due to amyloid deposition with accompanying cardiac abnormalities. *J Spinal Cord Med* 46(4):697-701,2023.
 - 16) 関島良樹. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス (トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー). *CLINICAL NEUROSCIENCE* 41(5):720-724,2023.
 - 17) 根本穂高、森文彦、佐藤達朗、吉長恒明、矢崎正英、杉浦彩、江口秀一郎. フィンランド型家族性アミロイドーシスに伴う角膜アミロイドーシスの 2 家系. *日本眼科学會雑誌* 125(1):30-37,2023.
 - 18) 関島良樹. ニューロパチー診療の進歩 -核酸医薬を中心に-. *日本内科学会雑誌* 112 (9) :1654-1661,2023.
 - 19) 関島良樹. 全身性アミロイドーシスからアルツハイマー病への implication. *週刊医学のあゆみ* 287 (13) : 1039-1046,2023.

内木 宏延

- 1) Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. *Amyloid* 30(3):321-326, 2023.
- 2) Shimamoto Y, Takahashi N, Katoh N, Matsui Y, Mochizuki Y, Ito M, Yazaki M, Kametani F, Kasuno K, Sekijima Y, Naiki H, Iwano M. Light and heavy chain deposition disease with focal amyloid deposition diagnosed with mass spectrometry: a case report. *BMC Nephrol* 24(1):187, 2023.
- 3) Yamaguchi A, Tasaki M, Ueda M, Ando Y, Naiki H. Epidemiological study of the subtype frequency of systemic amyloidosis based on the Annual of the Pathological Autopsy Cases in Japan. *Pathol Int* 74(2):68-76, 2023.
- 4) Fuchida SI, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C. A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee. *Int J Hematol* 118(4):443-449, 2023.
- 5) Tajima K, Nomura T, Terada T, Okuyama S, Kumagai H, Maeda K, Ogata S, Naiki H. Solitary follicular lymphoma with plasmacytic differentiation associated with localized AL amyloidosis in the jejunum. *Ann Hematol* 102(6): 1625-1627, 2023.
- 6) 堂本裕加子, 内木宏延. アミロイドーシスと質量分析イメージング. *医学のあゆみ* 287(9): 715-721, 2023.

植田 光晴

- 1) Takahashi K, Hiratsuka Y, Sasaki D, Sakaue T, Enomoto D, Morioka H, Uemura S, Okura T, Ikeda S, Kono T, Iwamura T, Yamamura N, Kitazawa S, Ueda M. ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy can image tracer uptake in skeletal trunk muscles of transthyretin cardiac amyloidosis. Brief title: Extracardiac PYP uptake in ATTR-CA. *Clin Nucl Med* 48:18-24, 20

23

- 2) Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. Diagnostic performance of CT-derived extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen signal ratio for detecting cardiac amyloidosis. *Radiology* 306: e220542, 2023.
- 3) Goto M, Tasaki M, Ueda M. Early onset Congo red-positive fibrillary glomerulonephritis associated with glomerular DNAJB9 deposits mimicking renal amyloidosis. *Pathol Int* 73: 106-108, 2023.
- 4) Misumi Y, Tabata Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamakawa S, Nomura T, Ueda M. Binding of serum-derived amyloid-associated proteins to amyloid fibrils. *Amyloid* 30: 67-73, 2023.
- 5) Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y. Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Nucl Cardiol* 30: 403-404, 2023.
- 6) Kidoh M, Oda S, Takashio S, Kawano Y, Hayashi H, Emoto T, Shigematsu S, Yoshimura F, Nakaura T, Nagayama Y, Matsuoka M, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. Cardiac MRI-derived extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen R1 ratio on post-contrast T1 mapping for detecting cardiac amyloidosis. *Radiol Cardiothorac Imaging* 5: e220327, 2023.
- 7) Tahara S, Kohyama M, Nakamitsu A, Sugiyama Y, Tazaki T, Taogoshi H, Komo T, Yamaguchi T, Ueda M, Ishikawa A, Takahashi S, Sasaki M. Surgical strategies for localized colorectal amyloidosis. *Surg Case Rep* 9:66, 2023.
- 8) Usuku H, Yamamoto E, Sueta D, Noguchi M, Fujisaki T, Egashira K, Oike F, Fujisue K, Hanatani S, Arima Y, Takashio S, Kawano Y, Oda S, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Matsuoka M, Tsujita K. Prognostic value of right ventricular global longitudinal strain in patients with immunoglobulin light-chain cardiac amyloidosis. *Eur Heart J Open* 3: oead048, 2023.
- 9) Takahashi K, Morioka H, Sasaki D, Yamamura N, Kitazawa S, Ueda M, Sakaue T, Enomoto D, Uemura S, Okura T, Ikeda S. Two autopsy cases of wild-type transthyretin cardiac amyloidosis who died 10 days after technetium-99m-pyrophosphate scintigraphy. *J Nucl Cardiol* 30: 2215-2221, 2023.
- 10) Matsushita H, Sameshima G, Fukunari A, Okada M, Inoue F, Ueda M, Ando Y. Suppression of amyloid fibril formation by UV irradiat

- ion. *Journal of Radiation Research and Applied Sciences* 15: 1-6, 2023.
- 11) Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. *Amyloid* 30: 321-326, 2023.
 - 12) Takashio S, Morioka M, Ishii M, Morikawa K, Hirakawa K, Hanatani S, Oike F, Usuku H, Kidoh M, Oda S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K. Clinical characteristics, outcome, and therapeutic effect of tafamidis in wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 10: 2319-2329, 2023.
 - 13) Takashio S, Kato T, Tashima H, Irie H, Komohara Y, Oguni T, Morikawa K, Kuyama N, Tabata N, Hanatani S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K. Prevalence of cardiac amyloidosis in patients undergoing carpal tunnel release with amyloid deposition. *Circ J* 87: 1047-1055, 2023.
 - 14) Nomura T, Fujiki F, Ueda M. Popeye's sign in hereditary transthyretin amyloidosis. *JAMA Neurol* 80: 998-999, 2023.
 - 15) Usuku H, Yamamoto E, Imamura K, Fujisaki T, Egashira K, Komorita T, Oike F, Ishii M, Fujisue K, Hanatani S, Sueta D, Arima Y, Takashio S, Oda S, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K. Usefulness of automatic assessment of longitudinal strain to diagnose transthyretin amyloid cardiomyopathy. *Int J Cardiol Heart Vasc* 47: 101227, 2023.
 - 16) Kutsuzawa N, Takiguchi H, Ikoma H, Kumaki N, Nagai T, Ueda M, Ono Y, Horio Y, Nii mi K, Hayama N, Ito Y, Oguma T, Asano K. Nodular pulmonary amyloidosis preceding gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma, initially suspected to be lung cancer. *Tohoku J Exp Clin Med* 48: 91-94, 2023.
 - 17) Ohe M, Tahara N, Ueda M, Fukumoto Y. P-wave characteristics and atrium voltage mapping in cardiac amyloidosis with paroxysmal atrial fibrillation. *Eur Heart J Case Rep* 7: ytaad319, 2023.
 - 18) Maeda K, Sugimoto K, Tasaki M, Taniwaki T, Arima T, Shibata Y, Tateyama M, Karasugi T, Sueyoshi T, Masuda T, Uehara Y, Tokunaga T, Hisanaga S, Yugami M, Yonemitsu R, Ideo K, Matsushita K, Fukuma Y, Urugami M, Kawakami J, Yoshimura N, Takata K, Shimada M, Tanimura S, Matsunaga H, Kai Y, Takata S, Kubo R, Tajiri R, Homma F, Tian X, Ueda M, Nakamura T, Miyamoto T. Transthyretin amyloid deposition in ligamentum flavum (LF) is significantly correlated with L4-L5 and epidural fat hypertrophy in patients with lumbar spinal stenosis. *Sci Rep* 13: 20019, 2023.
 - 19) Takahashi K, Iwamura T, Hiratsuka Y, Sasaki D, Yamamura N, Ueda M, Yoshino M, Enomoto D, Morioka H, Uemura S, Okura T, Sakaue T, Ikeda S. Iatrogenic intramuscular hematoma of the oblique muscles as a complication of technetium-99m-labeled pyrophosphate imaging-based computed tomography-guided core-needle biopsy in a patient with wild-type transthyretin cardiac amyloidosis. *Radiol Case Rep* 19: 330-340, 2023.
 - 20) Takahashi K, Hiratsuka Y, Iwamura T, Sasaki D, Yamamura N, Kitazawa S, Ueda M, Morioka H, Okura T, Enomoto D, Uemura S, Kono T, Sakaue T, Ikeda S. Technetium-99m-pyrophosphate imaging-based computed tomography-guided core-needle biopsy of internal oblique muscle in wild-type transthyretin cardiac amyloidosis. *Amyloid* 31: 12-21, 2024.
 - 21) Hayashi H, Oda S, Kidoh M, Yamaguchi S, Yoshimura F, Takashio S, Usuku H, Nagayama Y, Nakaura T, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. Myocardial extracellular volume quantification in cardiac amyloidosis: Comparison with cardiac computed tomography and magnetic resonance imaging. *Eur Radiol* 34: 1016-1025, 2024.
 - 22) Ticao S, Aldinc E, Polydefkis M, Adams D, Coelho T, Ueda M, Hale C, Vest J, Nioi P, Patisiran Global OLE study group. Treatment response and neurofilament light chain levels with long-term patisiran in hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: 24 months results of an open-label extension study. *Amyloid* 31: 1-11, 2024.
 - 23) Takahashi K, Iwamura T, Hiratsuka Y, Sasaki D, Yamamura N, Ueda M, Morioka H, Yoshino M, Enomoto D, Uemura S, Okura T, Sakaue T, Ikeda S. A Gluteus Medius Muscle Biopsy to Confirm Amyloid Transthyretin Deposition in Wild-type Transthyretin Cardiac Amyloidosis: A Report of Two Cases. *Intern Med*, 2024 in press.
 - 24) Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Yamakawa S, Tasaki M, Obayashi K, Ando Y, Ueda M. Correlation between a commercial electrophysiological test of sudomotor function and intradermal nerve fiber density in hereditary transthyretin amyloidosis. *Muscle Nerve* 69: 99-102, 2024.
 - 25) Ueda M, Misumi Y, Nomura T, Tasaki M, Yamakawa S, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y. Disease-modifying drugs extend survival in hereditary transthyretin amyloid polyneuropathy. *Ann Neurol* 95: 230-236, 2024.

- 26) Yamaguchi A, Tasaki M, Ueda M, Ando Y, Naiki H. Epidemiological study of the subtype frequency of systemic amyloidosis listed in the Annual of the Pathological Autopsy Cases in Japan. *Pathol Int*, 74: 68-76, 2024
- 27) Nishizawa RH, Kawano H, Yoshimuta T, Eguichi C, Kojima S, Minami T, Sato D, Eguchi M, Okano S, Ikeda S, Ueda M, Maemura K. Effects of tafamidis on the left ventricular and left atrial strain in patients with wild-type transthyretin cardiac amyloidosis. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging*, 2024 in press.
- 28) Watanabe T, Takihara Y, Jono H, Fujimoto T, Tasaki M, Isoguchi A, Urahashi Y, Shimoda T, Takahashi E, Ando Y, Ueno S, Ueda M, Inoue T. Silencing of ocular transthyretin, a gene responsible for hereditary transthyretin amyloidosis, by intravitreal injection of an siRNA conjugate into rabbit eyes. *Biochem Biophys Res Commun* 694:149397, 2024.
- 29) Nomura T, Misumi Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y, Ueda M. Origin of transthyretin in cerebral amyloid angiopathy. *JAMA Neurol* 81: 421-423, 2024.
- 30) Hokamura M, Uetani H, Nakaura T, Matsuo K, Morita K, Nagayama Y, Kidoh M, Yamashita Y, Ueda M, Mukasa A, Hirai T. Exploring the impact of super-resolution deep learning on MR angiography image quality. *Neuroradiology* 66: 217-226, 2024.
- 島崎 千尋
- 1) Sunami K, Fuchida SI, Suzuki K, Ri M, Matsumoto M, Shimazaki C, Asaoku H, Shibayama H, Ishizawa K, Takamatsu H, Ikeda T, Maruyama D, Imada K, Uchiyama M, Kiguchi T, Iyama S, Murakami H, Onishi R, Tada K, Iida S. Anti-CD38 antibody isatuximab monotherapy for Japanese individuals with relapsed/refractory multiple myeloma: An update of the phase 1/2 ISLANDs study. *Hematol Oncol* 41:442-452, 2023.
- 2) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin H J, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA. *Ann Hematol* 102(4):863-876, 2023.
- 3) Shimazaki C, Matsui-Maegawa S, Kimoto-Matsumura Y, Ota-Kuwabara S, Ide D, Fuchida SI, Hatsuse M. The serum level of plasmin-activator inhibitor complex (PIC) is useful for differentiating cardiac light chain amyloidosis from transthyretin amyloidosis. *Br J Haematol* 202(6):1209-1212, 2023.
- 4) Fuchida SI, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C. A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee. *Int J Hematol* 118(4):443-449, 2023.
- 5) Shimura Y, Shibayama H, Nakaya A, Yamamura R, Imada K, Kaneko H, Hanamoto H, Fuchida SI, Tanaka H, Kosugi S, Kiyota M, Matsui T, Kanda J, Iida M, Matsuda M, Uoshima N, Shibano M, Karasuno T, Hamada T, Ohta K, Ito T, Yagi H, Yoshihara S, Shimazaki C, Nomura S, Hino M, Takaori-Kondo A, Matsumura I, Kanakura Y, Kuroda J. Real-world data on induction therapy in patients with transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma: retrospective analysis of 598 cases from Kansai Myeloma Forum. *Int J Hematol* 118(5):609-617, 2023.
- 6) Shimazu Y, Kanda J, Kosugi S, Ito T, Kaneko H, Imada K, Shimura Y, Fuchida SI, Fukushima K, Tanaka H, Yoshihara S, Ohta K, Uoshima N, Yagi H, Shibayama H, Yamamura R, Tanaka Y, Uchiyama H, Onda Y, Adachi Y, Hanamoto H, Takahashi R, Matsuda M, Miyoshi T, Takakuwa T, Hino M, Hosen N, Nomura S, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Kuroda J. Efficacy of elotuzumab for multiple myeloma in reference to lymphocyte counts and kappa/lambda ratio or B2 microglobulin. *Sci Rep* 13(1):5159, 2023.
- 7) Nakaya A, Shibayama H, Uoshima N, Yamamura R, Yoshioka S, Imada K, Shimura Y, Hotta M, Matsui T, Kosugi S, Hanamoto H, Uchiyama H, Yoshihara S, Fuchida SI, Onda Y, Tanaka Y, Ohta K, Matsuda M, Kanda J, Yoko A, Kiyota M, Kawata E, Takahashi R, Fukushima K, Tanaka H, Yagi H, Takakuwa T, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Hino M. Impact of cytogenetic abnormalities in symptomatic multiple myeloma; a Japanese real-world analysis from Kansai Myeloma Forum. *Leuk Res Rep* 2023 Nov 17;20:100395. doi: 10.1016/j.lrr.2023.100395. eCollection 2023.
- 小池 春樹
- 1) Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M, Takamori A, Furukawa T, Ide T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Koike H, Irie H, Abe T. Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is

- associated with malignant brain edema. *J Neurointerv Surg*, 2024 in press.
- 2) Ide T, Goto Y, Nishihara M, Eriguchi M, Koike H. Co-occurrence of subacute combined degeneration of the spinal cord and neuromyelitis optica spectrum disorder. *Acta Neurol Belg*, 2024 in press.
 - 3) Mouri N, Koike H, Fukami Y, Takahashi M, Yagi S, Furukawa S, Suzuki M, Kishimoto Y, Murate K, Nukui T, Yoshida T, Kudo Y, Tada M, Higashiyama Y, Watanabe H, Nakatsuji Y, Tanaka F, Katsuno M. Granuloma, vasculitis, and demyelination in sarcoid neuropathy. *Eur J Neurol* 31(1): e16091, 2024.
 - 4) Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Ouchida J, Murakami A, Iida M, Yokoi S, Hashizume A, Iguchi Y, Imagama S, Katsuno M. Autoantibodies Against Dihydroipoamide S-Acetyltransferase in Immune-Mediated Neuropathies. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm* 11(2): e200199, 2024.
 - 5) Nakane S, Koike H, Hayashi T, Nakatsuji Y. Autoimmune Autonomic Neuropathy: From Pathogenesis to Diagnosis. *Int J Mol Sci* 25(4): 2296, 2024.
 - 6) Kazuta T, Murakami A, Noda S, Hirano S, Kito H, Tsujikawa K, Nakanishi H, Kimura S, Sahashi K, Koike H, Katsuno M. Clinicopathological features of graft versus host disease-associated myositis. *Ann Clin Transl Neurol* 11(2): 508-519, 2024.
 - 7) Wada T, Doi H, Okubo M, Tada M, Ueda N, Suzuki H, Tominaga W, Koike H, Komiya H, Kubota S, Hashiguchi S, Nakamura H, Takahashi K, Kunii M, Tanaka K, Miyaji Y, Higashiyama Y, Koshimizu E, Miyatake S, Katsuno M, Fujii S, Takahashi H, Matsumoto N, Takeuchi H, Tanaka F. RNA Foci in Two bi-Allelic RFC1 Expansion Carriers. *Ann Neurol* 95(3): 607-613, 2024.
 - 8) Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M. Neutrophil extracellular traps: from antimicrobial innate immunity to the development of chemotherapy-induced peripheral neuropathy. *EBioMedicine* 90: 104526, 2023.
 - 9) Ohyama K, Koike H, Tanaka M, Nosaki Y, Yokoi T, Iwai K, Katsuno M. A Bioelectrical Impedance Analysis for the Assessment of Muscle Atrophy in Patients with Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy. *Intern Med* 62(9): 1273-1278, 2023.
 - 10) Fukushima T, Ikeda S, Tomita M, Mori Y, Fukami Y, Koike H, Katsuno M, Ogata H, Isobe N, Hattori N. Demyelinating Neuropathy with Markedly Elevated Serum IgG4 Levels and Anti-Contactin 1 IgG4 Antibody. *Intern Med* 62(9): 1341-1344, 2023.
 - 11) Ando Y, Waddington-Cruz M, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Konishi H, Ishii T, Coelho T. Optimal practices for the management of hereditary transthyretin amyloidosis: real-world experience from Japan, Brazil, and Portugal. *Orphanet J Rare Dis* 18(1): 323, 2023.
 - 12) Obici L, Ajroud-Driss S, Lin KP, Berk JL, Gillmore JD, Kale P, Koike H, Danese D, Aldinc E, Chen C, Vest J, Adams D; HELIOS-A Collaborators Study Group. Impact of Vutrisiran on Quality of Life and Physical Function in Patients with Hereditary Transthyretin-Mediated Amyloidosis with Polyneuropathy. *Neurol Ther* 12(5): 1759-1775, 2023.
 - 13) Ando T, Watanabe H, Riku Y, Yoshida M, Goto Y, Ando R, Fujino M, Ito M, Koike H, Katsuno M, Iwasaki Y. Neurogenic intermittent claudication caused by vasculitis in the cauda equina: an autopsy case report. *Eur Spine J* 32(7): 2602-2606, 2023.
- 山田 俊幸
Ryohei K, Sawahata M, Nakayama M, Yamada T, Taniguchi N, Bando M, Hagiwara K. Prevalence of systemic and local risk factors for pulmonary non-tuberculous mycobacterial disease in Japan: a single-institution study. *J Rural Med* 18(3):168-174,2023.
- 小野 賢二郎
1) Momma Y, Tsuji M, Oguchi T, Ohashi H, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Nakamura S, Kiuchi Y, Ono K. The curcumin derivative GT863 protects cell membranes in cytotoxicity by A β oligomers. *Int J Mol Sci* 24:3089, 2023.
- 2) Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K. Effects of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial. *J Alzheimers Dis* 91:805-814, 2023.
- 3) Noguchi-Shinohara M, Murakami H, Sakashita Y, Mori Y, Komatsu J, Muramatsu D, Hikishima S, Ono K. Plasma amyloid- β biomarkers are associated with Alzheimer's disease comorbidity in Lewy body disease. *Parkinsonism Relat Disord* 111:105445, 2023.
- 4) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K. Cerebrospinal fluid biomarkers and amyloid- β elimination from the brain in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *J Alzheimers*

- Dis 91:1173-1183, 2023.
- 5) Watanabe-Nakayama T, Tsuji M, Umeda K, Oguchi T, Konno H, Noguchi-Shinohara M, Kiuchi Y, Kodera N, Teplow DB, Ono K. Structural dynamics of amyloid- β protofibrils and actions of anti- amyloid- β antibodies as observed by high-speed atomic force microscopy. *Nano Lett* 23:6259-6268, 2023.
 - 6) Noguchi-Shinohara M, Ono K. The mechanisms of the roles of α -synuclein, amyloid- β , and tau protein in the Lewy body diseases: pathogenesis, early detection, and therapeutics. *Int J Mol Sci* 24:10215, 2023.
 - 7) 小野賢二郎. バイオマーカーや疾患修飾療法の標的としてのA β . 実験医学 (増刊: いま新薬で加速する 神経変性疾患研究 異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る) 41:1907-1913, 2023.
 - 8) 小野賢二郎. 認知症の診断と治療—Alzheimer病を中心に—. *神経治療学* 40:233-236, 2023.
 - 9) 小野賢二郎. アルツハイマー病の診断と治療. *日本内科学会雑誌* 112:1764-1770, 2023.
 - 10) 小野賢二郎. アルツハイマー病: 疾患修飾へのアプローチ. *北陸神経精神医学雑誌* 37:3-6, 2023.
 - 11) 篠原もえ子, 小野賢二郎. ロスマリン酸含有レモンバーム抽出物の抗Alzheimer病効果に関する臨床試験. *神経治療学* 40:401-406, 2023.
 - 12) 稗田宗太郎, 小野賢二郎. ミスフォールディング病に対する抗体医薬の現状—Alzheimer病・Parkinson病を中心に. 実験医学 (増刊: いま新薬で加速する 神経変性疾患研究 異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る) 41:1996-2003, 2023.
 - 13) 小野賢二郎. レカネマブ. *Current Therapy* 2024 42:243, 2024.
 - 14) 小野賢二郎. アルツハイマー型認知症. *日本医事新報* 5210:35-36, 2024.
 - 15) 中野博人, 小野賢二郎. 認知症. *薬事* 66:727-731, 2024.
 - 16) 小野賢二郎. アルツハイマー病に対する新規治療薬—レカネマブ. *Medical Practice* 41:644-645, 2024.
 - 17) 小野賢二郎. アルツハイマー病. 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 (総編) 今日の治療指針 2023年版, 医学書院, 東京, pp 946-947, 2023.
 - 18) 篠原もえ子, 小野賢二郎. 認知症. 矢富 裕, 山田俊幸 (監) 下澤達雄, 佐藤健夫, 松井啓隆, 長尾美紀 (編) 今日臨床検査2023-2024, 南江堂, 東京, pp38, 2023.
 - 19) 稗田宗太郎, 小野賢二郎: Alzheimer型認知症. 藤村昭夫 (監) 藤本 茂 (編) 神経診療がわかる現場の教科書 診るロジックと薬の使い方, じほう, 東京, pp110-120, 2023.
 - 20) 中野博人, 小野賢二郎. アミロイド関連画像異常 (ARIA). 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭 (編) *Annual Review 神経* 2024, 中外医学社, 東京, pp84-88, 2024.
- 田原 宣広
- 1) Tahara A, Tahara N, Sugiyama Y, Honda A, Fukumoto Y. Multimodal imaging of pulmonary artery involvement in large vessel vasculitis. *Eur Heart J Case Rep* 7(2):ytad039,2023.
 - 2) Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y. Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Nucl Cardiol* 30(1):403-404,2023.
 - 3) Itaya N, Tahara N, Bekki M, Fukumoto Y. The role of coronary angiography and FDG-PET/CTA in interventional therapy. *J Nucl Cardiol* 30(3):1269-1271,2023.
 - 4) Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Yoshimura H, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Chibana H, Abe T, Ueno T, Fukumoto Y. Stent inflammation and PCI complications in end-stage chronic kidney disease. *J Nucl Cardiol* 30(3):1290-1292,2023.
 - 5) Ohe M, Tahara N, Ueda M, Fukumoto Y. P-wave characteristics and atrium voltage mapping in cardiac amyloidosis with paroxysmal atrial fibrillation. *Eur Heart J Case Rep* 7(7):ytad319,2023.
 - 6) Kono T, Tahara N, Bekki M, Saku K, Sugiyama Y, Honda A, Takaseya T, Shojima T, Takagi K, Abe T, Fukumoto Y, Tayama E. Inflammatory response of Teflon felt strip 41 years after surgical repair for Ebstein's anomaly. *J Nucl Cardiol* 30(4):1700-1701,2023.
 - 7) Tahara A, Tahara N, Bekki M, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Fukuoka R, Abe T, Fukumoto Y. Utility of very long fasting to detect myocardial inflammation in cardiac sarcoidosis. *J Nucl Cardiol* 30(5):2240-2241,2023.

- 8) Ito S, Tahara N, Fukumoto Y. Refractory pulmonary artery intimal sarcoma. *Eur Heart J* 44(36):3484,2023.
- 9) Koga Y, Tahara N, Tahara A, Fukumoto Y. Calcium sign of aortic dissection. *Eur Heart J Case Rep* 7(9):ytad423,2023.
- 10) Tahara N, Fukumoto Y, Tayama E. Utility of vector flow mapping and [18F]fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography to assess left ventricular workload in obstructive hypertrophic cardiomyopathy. *Eur Heart J* 30:ehae005,2024.
- 11) Kikuchi K, Tahara N, Fukumoto Y. Benign hypermetabolic lymph nodes after COVID-19 vaccination. *BMJ Case Rep* 17(2):e258936, 2024.

遠藤 仁

- 1) Awaya T, Endo J, Iijima R, Shimoda M, Moroi M. siRNA therapy improves multimodality imaging in hereditary transthyretin cardiac amyloidosis: a case report. *QJM* 117(4):304-306,2024.
- 2) Ichihara G, Katsumata Y, Sugiura Y, Matsuoka Y, Maeda R, Endo J, Anzai A, Shirakawa K, Moriyama H, Kitakata H, Hiraide T, Goto S, Ko S, Iwasawa Y, Sugai K, Daigo K, Goto S, Sato K, Yamada K, Suematsu M, Ieda M, Sano M. MRP1-Dependent Extracellular Release of Glutathione Induces Cardiomyocyte Ferroptosis After Ischemia-Reperfusion. *Circ Res* 133(10):861-876, 2023.
- 3) Miyama H, Katsumata Y, Momoi M, Ichihara G, Fujisawa T, Endo J, Kawakami T, Kataoka M, Yuasa S, Sano M, Sato K, Fukuda K. Genetic Testing Enables the Diagnosis of Familial Hypercholesterolemia Underdiagnosed by Clinical Criteria: Analysis of Japanese Early-Onset Coronary Artery Disease Patients. *Cardiol Res Pract* 2023:2236422, 2023.
- 4) Ikura H, Kitakata H, Endo J. A Reliable Baton Passing From Orthopedic Surgeon to Cardiologist- Cardiac Screening in Patients With Carpal Tunnel Syndrome for Early Diagnosis of Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy. *Circ J* 87(8):1056-1057, 2023.
- 5) Moriyama H, Endo J. Pathophysiological Involvement of Mast Cells and the Lipid Mediators in Pulmonary Vascular Remodeling. *Int J Mol Sci* 24(7):6619, 2023

- 6) Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. *Amyloid* 30(3):321-326, 2023.
- 7) de Jongh MC, Tsuruta H, Hayashida K, Hase H, Yoshijima N, Saito T, Myojin S, Kobari Y, Ryuzaki T, Imaeda S, Shirakawa K, Okada M, Endo J, Shinada K, Itabashi Y, Inohara T, Kohsaka S, Kato J, Takahashi T, Yamazaki M, Shimizu H, Fukuda K. Right Ventricular Dysfunction in Patients With Concomitant Tricuspid Regurgitation Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation. *Circ J* 88(4):451-459, 2023.
- 8) Kimura M, Kohno T, Shinya Y, Hiraide T, Moriyama H, Endo J, Murata M, Fukuda K. De-escalation of Oxygen Therapy and Medication in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension After Balloon Pulmonary Angioplasty. *Can J Cardiol* 39(5):637-645, 2023.

大橋 健一

- 1) Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. *JSES Int* 8(2):349-354, 2023.
- 2) Iijima T, Sawa N, Wake A, Kono K, Kinowaki K, Ubara Y, Ohashi K. Linear discriminant analysis on electrocardiogram achieved classification of cardiac involvement status in amyloid light-chain amyloidosis. *J Cardiol* 82(5):349-355, 2023.
- 3) Iijima T, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Ubara Y, Ohashi K. Cardiac and renal AL amyloidosis controlled by autologous stem cell transplantation for 17 years accompanying late onset atrial fibrillation and complete atrioventricular block. *CEN Case Rep* 12(4):362-367,2023.

畠山 金太

Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M,

Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y. Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. *Amyloid* 30(3):321-326, 2023.

鈴木 憲史

- 1) Dimopoulos MA, Dytfeld D, Grosicki S, Moreau P, Takezako N, Hori M, Leleu X, LeBlanc R, Suzuki K, Raab MS, Richardson PG, Popa McKiver M, Jou YM, Yao D, Das P, San-Miguel J. Elotuzumab Plus Pomalidomide and Dexamethasone for Relapsed/Refractory Multiple Myeloma: Final Overall Survival Analysis From the Randomized Phase II ELOQUENT-3 Trial. *J Clin Oncol* 20;41(3):568-578,2023.
- 2) Martin TG, Capra M, Mohty M, Suzuki K, Quach H, Cavo M, Moreau P, Dimopoulos M, Yong K, Tekle C, Foster MC, Barnes Y, Risse ML, Mikhael J. Isatuximab Plus Carfilzomib and Dexamethasone Versus Carfilzomib and Dexamethasone in Patients with Relapsed Multiple Myeloma: IKEMA Subgroup Analysis by Prior Transplantation. *Transplant. Cell Ther* 29(2):134.e1-134.e7, 2023.
- 3) Dimopoulos MA, Oriol A, Nahi H, San-Miguel J, Bahlis NJ, Usmani SZ, Rabin N, Orłowski RZ, S, Suzuki K, Plesner T, Yoon SS, Ben Yehuda D, Richardson PG, Goldschmidt H, Reece D, Ahmadi T, Qin X, Garvin Mayo W, Gai X, Carey J, Carson R, Moreau P. Overall Survival with Daratumumab, Lenalidomide, and Dexamethasone in Previously Treated Multiple Myeloma (POLLUX): A Randomized, Open-Label, Phase III Trial. *J Clin Oncol* 10;41(8):1590-1599, 2023.
- 4) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA. *Ann Hematol* 102(4):863-876,2023.
- 5) Martin T, Dimopoulos MA, Mikhael J, Yong K, Capra M, Facon T, Hajek R, Špička I, Baker R, Kim K, Martinez G, Min CK, Pour L, Leleu X, Oriol A, Koh Y, Suzuki K, Casca F, Macé S, Risse ML, Moreau P. Isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in patients with relapsed multiple myeloma: updated results from IKEMA, a randomized Phase 3 study. *Blood Cancer J* 9;13(1):72,2023.
- 6) Minakata D, Ishida T, Ando K, Suzuki R, Tanaka J, Hagiwara S, Ananthakrishnan R, Kuwayama S, Nishio M, Kanda Y, Suzuki K. Phase 2 results of idecabtagene vicleucel (ide-cel, bb2121) in Japanese patients with relapsed and refractory multiple myeloma. *Int J Hematol* 117(5):729-737,2023.
- 7) Sanchorawala V, Wechalekar AD, Kim K, Schönland SO, Landau HJ, Kwok F, Suzuki K, Dispenzieri A, Merlini G, Comenzo RL, Cherepanov D, Hayden VC, Kumar A, Labotka R, Faller DV, Kastiris E. Quality of life and symptoms among patients with relapsed/refractory AL amyloidosis treated with ixazomib-dexamethasone versus physician's choice. *Am J Hematol* 98(5):720-729, 2023.
- 8) Uno S, Midorikawa S, Inoue K, Ichikawa D, Ito T, Kuroda J, Suzuki K. Survival outcomes among patients with multiple myeloma in the era of novel agents: exploratory assessment using an electronic medical record database in Japan. *PLoS One* 31;18(5):e0285947, 2023.
- 9) Kikuchi T, Tsukada N, Nomura M, Kasuya Y, Oda Y, Sato K, Takei T, Ogura M, Abe Y, Suzuki K, Ishida T. Real-world clinical outcomes in patients with multiple myeloma treated with isatuximab after daratumumab treatment. *Ann Hematol* 102(6):1477-1483, 2023.
- 10) Sunami K, Fuchida SI, Suzuki K, Ri M, Matsumoto M, Shimazaki C, Asaoku H, Shibayama H, Ishizawa K, Takamatsu H, Ikeda T, Maruyama D, Imada K, Uchiyama M, Kiguchi T, Iyama S, Murakami H, Onishi R, Tada K, Iida S. Anti-CD38 antibody isatuximab monotherapy for Japanese individuals with relapsed/refractory multiple myeloma: An update of the phase 1/2 ISLANDs study. *Hematol Oncol* 41(3):442-452,2023.
- 11) Abe Y, Sasaki M, Takezako N, Ito S, Suzuki K, Handa H, Chou T, Yoshida T, Mori I, Shinozaki T, Suzuki K. Correction to: Efficacy and safety of ixazomib plus lenalidomide and dexamethasone following injectable pi based therapy in

- relapsed/refractory multiple myeloma. *Ann Hematol* 102(9):2505, 2023.
- 12) Abe Y, Sasaki M, Takezako N, Ito S, Suzuki K, Handa H, Chou T, Yoshida T, Mori I, Shinozaki T, Suzuki K. Efficacy and Safety of Ixazomib Plus Lenalidomide and Dexamethasone Following Injectable PI-Based Therapy in Relapsed/Refractory Multiple Myeloma. *Ann Hematol* 102(9):2493-2504, 2023.
 - 13) Kikuchi T, Tsukada N, Kunisada K, Nomura-Yogo M, Oda Y, Sato K, Takei T, Ogura M, Abe Y, Suzuki K, Ishida T. Real-world clinical outcomes in patients with relapsed and refractory multiple myeloma receiving VTD-PACE treatment in the era of monoclonal antibodies. *Ann Hematol* 102(12):3489-3497, 2023.
 - 14) Martin T, Dimopoulos MA, Mikhael J, Yong K, Capra M, Facon T, Hajek R, Špička I, Baker R, Kim K, Martinez G, Min CK, Pour L, Leleu X, Oriol A, Koh Y, , Suzuki K, Casca F, Macé S, Risse ML, Moreau P. Correction: Isatuximab, carfilzomib, and dexamethasone in patients with relapsed multiple myeloma: updated results from IKEMA, a randomized Phase 3 study. *Blood Cancer J* 27;13(1):152, 2023.
 - 15) Suzuki K, Fujii T, Iriyama T, Sato Y, Kawasaki T, Hayashi K, Endo K. Optimal safety management procedures for medications with potent teratogenic properties: a prospective intervention cluster randomized non-inferiority comparative study. *Rinsho Ketsueki* 64(3):175-186, 2023.
 - 16) Kawano Y, Kim K, Min CK, Koh Y, Ishizawa K, Kim SH, Ito S, Tanaka J, Uchiyama M, Ishida T, Kim JS, Moreau P, Martin T, Tada K, Risse ML, Suzuki K. Isatuximab Plus Carfilzomib and Dexamethasone in East Asian Patients with Relapsed Multiple Myeloma: Updated IKEMA Subgroup Analysis. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 23(10):e360-e367, 2023.
 - 17) Suzuki K, Matsumoto M, Hiramatsu Y, Takezako N, Tamai Y, Suzuki K. Once Monthly Elotuzumab and Lenalidomide Plus Dexamethasone for Multiple Myeloma: A Multicenter Observation Study. *Acta Haematol* 146(2):125-136, 2023.
- 山本 卓
- 1) Komaba H, Zhao J, Karaboyas A, Yamamoto S, Dasgupta I, Hassan M, Zuo L, Christensson A, Combe C, Robinson BM, Fukagawa M. Active vitamin D use and fractures in hemodialysis patients: Results from the international DOPPS. *J Bone Miner Res* 38:1577-1585, 2023.
 - 2) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Narita I. Dynamic and static balance functions in hemodialysis patients and non-dialysis dependent CKD patients. *Ther Apher Dial* 27: 412-418, 2023.
 - 3) Yamamoto S, Jørgensen HS, Zhao J, Karaboyas A, Komaba H, Vervloet M, Mazzaferro S, Cavalier E, Bieber B, Robinson B, Evenepoel P, Fukagawa M. Alkaline phosphatase and parathyroid hormone levels: International variation and associations with clinical outcomes in the DOPPS. *Kidney Int Rep* 9(4):863-876, 2024.
 - 4) Yamamoto S, Tanaka T, Omori K, Ei I, Kikuchi K, Konagai A, Goto S, Kitamura N, Narita I. Pruritus and protein-bound uremic toxins in patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional study. *Clin Kidney J* 17: sfae007, 2024.
 - 5) Shirai N, Yamamoto S*, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Murayama T, Narita I. Protein intake and its relationship with frailty in chronic kidney disease. *Clin Exp Nephrol* 28(5):447-453, 2024.
 - 6) Habuka M, Nishikiori M, Oikawa C, Takahashi M, Sakamaki Y, Ogawa A, Miyajima N, Tanabe Y, Honma K, Wakaki K, Yamamoto S, Narita I. A case of systemic amyloid A amyloidosis secondary to xanthogranulomatous pyelonephritis. *Intern Med* 63(4):593-599, 2024.
 - 7) Yoshida S, Yamamoto S, Miyauchi D, Terashima R, Hashimoto A, Miyazawa H, Tanaka T, Ishizawa M, Tanaka M, Tomita Y, Aoike I, Goto S, Narita I. Removal of a1-microglobulin using post-dilution online hemodiafiltration with polymethylmethacrylate membrane: An open-label, single-arm study. *Blood Purif* 53: 123-129, 2024.
 - 8) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Sugahara T, Narita I. Low muscle strength and physical function contribute to falls in hemodialysis patients, but not muscle mass. *Clin Exp Nephrol* 28: 67-74, 2024.
 - 9) Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Yamaguchi K, Nakajima K, Sato M, Kawachi M, Domon M, Goto K, Omori K, Iino N, Shimada H, Aoyagi R, Ei I, Goto S, Goto Y, Gejyo F, Yamamoto T, Narita I. Mass spectrometry-based

proteomic analysis of proteins adsorbed by hexadecyl-immobilized cellulose bead column for the treatment of dialysis-related amyloidosis. *Amyloid*, 2024 in press.

- 10) Goto Y, Nakajima K, Yamamoto S, Yamaguchi K. Supersaturation, a critical factor underlying proteostasis of amyloid fibril formation. *J Mol Biol*, 2024 in press
- 11) Wakamatsu T, Yamamoto S, Matsuo K, Taniguchi M, Hamano T, Fukagawa M, Kazama JJ. Effectiveness of calcimimetics on fractures in dialysis patients with secondary hyperparathyroidism: Meta-analysis of randomized trials. *J Bone Miner Metab*, 2024 in press.
- 12) Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I. Appropriate anthropometric indices for geriatric nutritional risk index in predicting mortality in older Japanese patients: A comparison of the Lorentz formula and body mass index. *Tohoku J Exp Med*, 2024 in press.

坂井 健二

- 1) Shima A, Sakai K, Yamashita F, Hamaguchi T, Kitamoto T, Sasaki M, Yamada M, Ono K. Vacuoles related to tissue neuron-astrocyte ratio and infiltration of macrophages/monocytes contribute to hyperintense brain signals on diffusion-weighted magnetic resonance imaging in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease. *J Neurol Sci* 447:120612, 2023.
- 2) 坂井健二. 脳アミロイドアンギオパチー. 非腫瘍性疾患病理アトラス 中枢神経. 文光堂, 東京, pp 62-65, 2024.

三木 浩和

- 1) Yanagiya S, Honda T, Takanari H, Sogabe K, Nakamura S, Bando Y, Tsuneyama K, Abe M, Miki H. Raman Microspectroscopy for Label-Free Diagnosis of AL Amyloidosis in Various Organs. *Journal of Raman Spectroscopy*, 2024 in press
- 2) Maruhashi T, Miki H, Sogabe K, Oda A, Sumitani R, Oura M, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Nakamura S, Kurahashi K, Endo I, Abe M. Acute suppression of translation by hyperthermia enhances anti-myeloma activity of

carfilzomib. *Int J Hematol* 119(3): 201-302, 2023.

- 3) Sogabe K, Nakamura S, Higa Y, Miki H, Oda A, Maruhashi T, Sumitani R, Oura M, Takahashi M, Nakamura M, Maeda Y, Hara T, Yamagami H, Fujii S, Kagawa K, Ozaki S, Kurahashi K, Endo I, Aihara KI. Acute accumulation of PIM2 and NRF2 and recovery of $\beta 5$ subunit activity mitigate multiple myeloma cell susceptibility to proteasome inhibitors. *Int J Hematol* 119(3): 303-315, 2024.

加藤 修明

- 1) Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA. *Ann Hematol* 102(4):863-876, 2023.
- 2) Kubota Y, Hanaoka Y, Koyama JI, Takahashi Y, Katoh N, Iwaya M, Fujii Y, Ogiwara T, Horiuchi T. Surgical revascularization for quasi-moyamoya disease associated with polyneuropathy, organomegaly, endocrinopathy, monoclonal gammopathy, and skin changes (POEMS) syndrome: a case report and literature review. *Nagoya J Med Sci* 85(1):141-149, 2023.
- 3) Fuchida SI, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C. A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee. *Int J Hematol* 118(4):443-449, 2023.
- 4) Hanafusa H, Nakamura K, Kamijo Y, Kitahara M, Ehara T, Yoshinaga T, Aoki K, Katoh N, Yamaguchi T, Kosho T, Sekijima Y. Lysinuric protein intolerance exhibiting renal tubular acidosis/Fanconi syndrome in a Japanese woman. *JIMD Rep* 64(6):410-416, 2023.
- 5) Ichimata S, Aikawa A, Sugishita N, Katoh N, Kametani F, Tagawa H, Handa Y, Yazaki M, Sekijima Y, Ehara T, Nishida N, Ishizawa S.

Enterocolic granulomatous phlebitis associated with epidermal growth factor-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 deposition and focal amyloid properties: A case report. *Pathol Int* 74(3):146-153, 2024.

2. 学会発表

関島 良樹

- 1) 関島良樹. アミロイドーシス診療の最前線. 日本神経学会北海道地区生涯教育講演会, Web, 3, 5, 2023.
- 2) 関島良樹. ニューロパチー診療の進歩—核酸医薬を中心に—. 第 120 回日本内科学会総会・講演会, 東京, 4.14-16, 2023.
- 3) 関島良樹. 遺伝性ニューロパチーにおける早期治療の診断の必要性和最新の治療. 第 64 回日本神経学会学術大会, 幕張, 5, 31-6, 3, 2023.
- 4) 関島良樹. 第 2 世代 siRNA 製剤で変わる ATTRv アミロイドーシス診療. 第 64 回日本神経学会学術大会, 幕張, 5, 31-6, 3, 2023.
- 5) 関島良樹. 遺伝性神経疾患と遺伝カウンセリング-overview-. 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 松本, 7, 7-9, 2023.
- 6) 関島良樹. アミロイドーシス診療の最前線—認知症から全身性アミロイドーシスまで—. 第 56 回姫路市医師会夏季大学, 姫路, 7, 23, 2023.
- 7) 関島良樹. ATTR アミロイドーシス治療の最近の進歩. 第 34 回日本末梢神経学会学術集会, 京都, 9, 8-9, 2023.
- 8) 関島良樹. ATTR アミロイドーシス診療のこれまでとこれから. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23, 2023.
- 9) 関島良樹. 手足のしびれとアミロイドーシス. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23, 2023.
- 10) 関島良樹. アミロイドーシス診療の現状と将来展望 —アミロイドーシスに関する調査研究班の活動—. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23, 2023.
- 11) 関島良樹. ATTRv アミロイドーシスの早期診断と治療最前線. 第 27 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 横浜, 10, 13-14, 2023.

内木 宏延

- 1) 内木宏延. アミロイドーシス学会を代表して. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会,

高知, 9, 23, 2023.

- 2) 山口愛奈, 田崎雅義, 植田光晴, 安東由喜雄, 内木宏延. 日本病理剖検輯報に基づく全身性アミロイドーシス各病型頻度の疫学調査. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23, 2023.
- 3) 内木宏延. アミロイドーシス概論とシンポジウムの概要. 第 112 回日本病理学会総会, 下関, 4, 13-15, 2023.
- 4) 本田行平, 宮川文, 田崎雅義, 山野哲弘, 長峯理子, 森永友紀子, 田中顕之, 内木宏延, 植田光晴, 小西英一. 大動脈弁狭窄症に対する弁置換術で摘出された大動脈弁でのトランスサイレチン型アミロイドの同定. 第 112 回日本病理学会総会, 下関, 4, 13-15, 2023.
- 5) 長谷川一浩, 内木宏延. アルツハイマー病βアミロイド蛋白質の脳内での生理濃度である nM レベルでのアミロイド線維の増減を検出する新規反応系の開発. 第 96 回日本生化学会大会, 福岡, 10, 31-11, 2, 2023.
- 6) Shintani-Domoto Y, Naiki H. Japanese experience of amyloid proteomics: rare types, double amyloid, and AL. European Proteomics Amyloid Network Meeting in Kiel, Kiel(Germany), 1-2, July, 2023.

島崎 千尋

- 1) 淵田真一, 太田沙絵子, 木元弥生, 初瀬真弓, 島崎千尋. 当院で治療を受けた AL アミロイドーシス 122 例の検討: 単施設の後方視的解析. 第 85 回日本血液学会学術集会, 東京, 10, 14, 2023.
- 2) 木元弥生, 淵田真一, 太田沙絵子, 初瀬真弓, 島崎千尋. 心 AL アミロイドーシスにおける突然死を予測できるか. 第 85 回日本血液学会学術集会, 東京, 10, 14, 2023.
- 3) 淵田真一, 太田沙絵子, 木元弥生, 初瀬真弓, 島崎千尋. MGUS 合併限局性アミロイドーシスの 5 例. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23, 2023.

小池 春樹

- 1) Koike H. Pathophysiology of CIDP: Insights into classification and therapeutic strategy. 4th International Taiwanese Congress of Neurology & Annual Meeting of Taiwan Neurological Society, Taipei, 4, 14-16, 2023.
- 2) Koike H, Nishi R, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Katsuno M. In vivo visualization of eosinophil degranulation in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: an

- ultrastructural study, 2023 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Copenhagen, 6,17-20,2023.
- 3) Koike H, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Katsuno M, Early ultrastructural lesions of ANCA- vs complement-associated vasculitis, 2023 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Copenhagen, 6,17-20,2023.
 - 4) 小池春樹. 日常診療で遭遇する機会の多い薬剤・代謝・栄養性ニューロパチー. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 5,31-6,3,2023.
 - 5) 小池春樹. 病理からみた CIDP の病態. 第 41 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 11,3-5,2023.
 - 6) 小池春樹. 免疫性ニューロパチーの超微細形態学~この 10 年の進歩~. 第 34 回日本末梢神経学会学術集会, 京都, 9,8-9,2023.
- 星野 純一
- 1) 星野純一.透析アミロイドーシス治療の進歩. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 山田 俊幸
- 1) 川口公平, 佐藤純司, 山田俊幸: SAA とヒストンとの相互作用の解析. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023
- 奥田 恭章
- 1) 奥田恭章, 山田明弘, 村田洋介, 澤田直哉, 近藤惇, 二村麻理子, 大西誠, 高杉潔. RA に対する AA アミロイドーシス上部消化管生検スクリーニングの30年成績. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会, 博多, 4,25,2023.
 - 2) 奥田恭章. 関節リウマチ (RA) に対する AA アミロイドーシス上部消化管スクリーニングー30 年成績報告と臨床像の変遷についてー. 第 10 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 小野 賢二郎
- 1) Ono K, Nakayama T, Tsuji M, Umeda K, Oguchi T, Konno H, Shinohara M, Kiuch Y, Kodera N, Teplow DB. Structural dynamics of amyloid- β protofibrils and action of lecanemab as observed by high-speed atomic force microscopy. CTAD2023(16th Clinical Trials On Alzheimer's Disease), Boston, 10, 24-27, 2023.
 - 2) Ono K, Watanabe-Nakayama T. Structural Dynamics of Amyloid-B Protofibrils And Action Of Lecanemab As Observed By High-Speed Atomic Force Microscopy. AD/PD™ 2024 Alzheimer's & Parkinson's Diseases, Lisbon, 3, 5-9, 2024.
 - 3) Noguchi-Shinohara M, Murakami H, Sakashita Y, Mori Y, Komatsu J, Muramatsu D, Hikishima S, Ono K. Plasma Amyloid-B Biomarkers Distinguish Co-Morbid Alzheimer'S Disease Pathology In Patients With Lewy Body Disease. AD/PD™ 2024 Alzheimer's & Parkinson's Diseases, Lisbon, 3, 5-9, 2024.
 - 4) 小野賢二郎. アルツハイマー型認知症の診断と治療. 第120回日本内科学会総会・講演会, 東京, 4, 14-16, 2023.
 - 5) 小野賢二郎. アルツハイマー病の疾患修飾療法の現状と展望. 第31回日本医学会総会2023 東京, 東京, 4, 21-23, 2023.
 - 6) 小野賢二郎. アルツハイマー型認知症の根本的治療への展望. 第31回日本医学会総会2023 東京, 東京, 4, 21-23, 2023.
 - 7) 小野賢二郎. 認知症: 診断と治療の最前線. 第 64 回日本神経学会学術大会, 千葉, 5, 31, 2023.
 - 8) 小野賢二郎. アルツハイマー病の疾患修飾療法. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会 / 第66回日本神経化学学会大会, 神戸, 7, 6-8, 2023.
 - 9) 小野賢二郎. 異種アミロイド間の相互干渉効果. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会 / 第66回日本神経化学学会大会, 神戸, 7, 6-8, 2023.
 - 10) 小野賢二郎. アミロイド β に焦点を当てたアルツハイマー病の疾患修飾療法へのアプローチ. 第53回日本神経精神薬理学会, 東京, 9, 7-9, 2023.
 - 11) 小野賢二郎. アルツハイマー病治療戦略のフロントライン: アミロイド β 抗体療法. 第12回日本認知症予防学会学術集会, 新潟, 9, 15-17, 2023.
 - 12) 小野賢二郎. アルツハイマー病の疾患修飾薬の現状と展望. 第12回日本認知症予防学会学術集会, 新潟, 9, 15-17, 2023.
 - 13) 小野賢二郎. 抗アミロイド療法の実状と未来. 第41回日本神経治療学会学術集会, 東京, 11, 3-5, 2023.
 - 14) 小野賢二郎. 認知症の診断と治療ーアルツハイマー病を中心にー. 第41回日本神経治療学会学術集会. 東京. 11, 3-5, 2023.
 - 15) 小野賢二郎. 抗A β 抗体療法の機序と展望. 第 41 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 11, 3-5, 2023.

- 16) 小野賢二郎. アルツハイマー病の診断と治療の最前線. 第41回日本神経治療学会学術集会, 東京, 11, 3-5, 2023.
- 17) 小野賢二郎. プロトフィブリルと神経変性疾患. 第42回日本認知症学会学術大会, 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 18) 小野賢二郎. 高速原子間力顕微鏡 (高速AFM) を用いたアプローチ. 第42回日本認知症学会学術大会, 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 19) 小野賢二郎. A β 凝集体の毒性とその制御. 第42回日本認知症学会学術大会, 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 20) 小野賢二郎. アルツハイマー病の疾患修飾療法へのアプローチ. 第42回日本認知症学会学術大会, 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 21) 篠原もえ子, 小野賢二郎. 体液バイオマーカーからみたAlzheimer病理合併Lewy小体病. 第42回日本認知症学会学術大会, 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 22) 小野賢二郎, 中山隆宏, 辻まゆみ, 梅田健一, 小口達敬, 紺野宏記, 篠原もえ子, 木内祐二, 古寺哲幸, David B. Teplow. 高速原子間力顕微鏡を用いたA β プロトフィブリルの構造動態とレカネマブの作用. 第42回日本認知症学会学術大会. 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 23) 木村篤史, 安本太郎, 森友紀子, 門馬佑太郎, 野原哲人, 二村明德, 黒田岳志, 笠井英世, 金野竜太, 稗田宗太郎, Teplow David, 辻まゆみ, 木内祐二, 島田 齊, 村上秀友, 小野賢二郎. Vitamin B12 may inhibit the neurotoxicity of Amyloid beta oligomers and protect memory function. 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 5, 31, 2023.
- 24) 篠原もえ子, 村上秀友, 坂下泰浩, 森友紀子, 小松潤史, 村松大輝, 疋島貞雄, 小野賢二郎. 血液アミロイドマーカーによるアルツハイマー病理合併レビー小体病の検出. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会/第66回日本神経化学学会大会, 神戸, 7, 6-8, 2023.
- 25) 篠原もえ子, 村上秀友, 坂下泰浩, 森友紀子, 小松潤史, 村松大輝, 疋島貞雄, 小野賢二郎. 血液によるアルツハイマー病理合併レビー小体病の検出. 第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 大阪, 7, 20-22, 2023.
- 26) 篠原もえ子, 村上秀友, 坂下泰浩, 森友紀子, 小松潤史, 村松大輝, 疋島貞雄, 小野賢二郎. 血液によるアルツハイマー病理合併レビー小体病の検出. 第42回日本認知症学会学術大会. 奈良, 11, 24-26, 2023.
- 27) 野崎一朗, 池田篤平, 小松潤史, 坂下泰浩, 島

綾乃, 柴田修太郎, 篠原もえ子, 小野賢二郎. 腱反射亢進を認める遺伝性ATTRアミロイドーシスの臨床的特徴の検討. 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 5, 31, 2023.

北岡 裕章

- 1) 西村拓哉, 有馬直輝, 古島 知樹, 越智友梨, 弘田隆省, 久保亨, 北岡裕章. 心房細動アブレーション後に左房石灰化をきたし, "Stiff LA" の病態を呈した野生型ATTR心アミロイドーシスの一例. 第71回 日本心臓病学会, 東京 9,9,2023.
- 2) 山本ゆい, 越智友梨, 馬場裕一, 久保亨, 山崎直仁, 北岡 裕章. 心アミロイドーシスでは真に"apical sparing patten"をきたしているか 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 3) 吉本公美, 越智友梨, 馬場裕一, 久保亨, 山崎直仁, 北岡 裕章. 野生型 ATTR アミロイドーシスの心不全増悪に多発性骨髄腫が関与していた 1 例. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 4) 原 雅裕, 越智友梨, 馬場裕一, 久保亨, 山崎直仁, 北岡 裕章. 心不全ステージ D にて在宅医療に繋ぐことのできた野生型 ATTR 心アミロイドーシスの1例. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 5) 有馬直輝, 越智友梨, 馬場裕一, 久保亨, 山崎直仁, 北岡 裕章. 地域在住高齢者における野生型トランスサイレチン心アミロイドーシス有病率の推定 一般内科外来における高感度心筋トロポニン T 測定による調査. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.

田原 宣広

- 1) 田原宣広, 戸次宗久, 本多亮博, 緒方詔子, 吉川尚宏, 佐々木健一郎, 福本義弘. 「アミロイドーシスの包括的管理」栄養や運動療法を含めたアミロイドーシスの包括的管理. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9, 23,2023.
- 2) 田原宣広, siRNAが切り拓く遺伝性ATTRアミロイドーシス診療. 日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 3) 戸次宗久, 田原宣広, 緒方詔子, 本多亮博, 杵山陽一, 古賀祐樹, 田原敦子, 福本義弘. ブトリシランを導入したnon-V30Mの遺伝子変異を来したATTRv-CMの一例. 日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.

- 4) 本多亮博, 田原宣広, 緒方詔, 戸次宗久, 古賀祐樹, 杵山陽一, 福本義弘. 早期のトランスサイレチン安定化薬の導入により左室機能が改善した野生型トランスサイレチン型心アミロイドーシスの一例. 日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 5) 原健博, 杵山陽一, 戸次宗久, 佐々木雅浩, 伊藤章吾, 石松高, 高橋甚彌, 西田憲史, 田原宣広, 福本義弘. 経皮的心筋焼灼術によるStiff LA syndromeが疑われた症例. 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2023東京. 東京, 4,15,2023
- 6) 浅田不二子, 杵山陽一, 戸次宗久, 佐々木雅浩, 伊藤章吾, 石松高, 高橋甚彌, 西田憲文, 田原宣広, 福本義弘. エポプロステノールによる胃癒攣に芍薬甘草湯が著効した症例. 第8回日本肺高血圧・肺循環学会集会. 神戸, 6,3-4,2023.
- 7) 大神延章, 杵山陽一, 戸次宗久, 佐々木雅浩, 伊藤章吾, 石松高, 高橋甚彌, 西田憲文, 田原宣広, 福本義弘. 経皮的心筋焼灼術によるStiff LA syndromeが疑われた症例. 第8回日本肺高血圧・肺循環学会集会. 神戸, 6,3-4,2023
- 8) 中島菜穂子, 田原宣広, 杵山陽一, 戸次宗久, 本多亮博, 緒方詔子, 福本義弘. 呼吸器疾患に伴う肺高血圧症患者に対する緩和ケア. 第8回日本肺高血圧・肺循環学会集会. 神戸, 6,3-4,2023.
- 9) 古賀祐樹, 杵山陽一, 戸次宗久, 本多亮博, 緒方詔子, 石松高, 高橋甚彌, 西田憲文, 田原宣広, 福本義弘. 短期間の単剤肺血管拡張薬と免疫抑制療法が著効したCTD-PAH症例. 第8回日本肺高血圧・肺循環学会集会. 神戸, 6,3-4,2023
- 10) 杵山陽一, 田原宣広, 古賀祐樹, 戸次宗久, 本多亮博, 緒方詔子, 田原敦子, 福本義弘. 重度の呼吸疾患に伴う肺高血圧症に対する肺血管拡張薬の有用性. 第8回日本肺高血圧・肺循環学会集会. 神戸, 6,3-4,2023

遠藤 仁

- 1) 遠藤 仁. Discovering Cardiac Amyloidosis Hidden in Left Ventricular Hypertrophy. 第88回日本循環器学会学術集会, 神戸, 3,10,2024.
- 2) 遠藤 仁. ATTRと異なるAL心アミロイドーシスの緊急性と治療可能性. 第27回日本心不全学会学術集会, 横浜, 10,7,2023.
- 3) 遠藤 仁. トランスサイレチン線維による心筋障害機構の解明. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会 シンポジウム. 高知,

9,23,2023.

- 4) 遠藤 仁. siRNAが切り拓くATTRvアミロイドーシス診療. 第71回日本心臓病学会学術集会. 東京, 9,9,2023.
- 5) 遠藤 仁. 循環器内科の立場で考えるATTRアミロイドーシス診療. 第34回日本末梢神経学会学術集会. 京都. 9,8,2023.
- 6) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスのゲノム医療への展望. 第9回日本心筋症研究会シンポジウム. 大阪, 5,13,2023.
- 7) 遠藤 仁. 整形外科から循環器内科へのバトン〜シームレスなアミロイドーシス診療のために〜. 第66回日本手の外科学会. 東京, 4,21,2023.

大橋 健一

- 1) 河野 圭, 澤 直樹, 乳原 善文, 堂本 裕加子, 藤井 丈士, 高澤 豊, 大橋 健一. ALアミロイドーシス患者における腎臓へのアミロイド沈着と腎機能・腎予後に関する病理組織学的検討. 第112回日本病理学会総会, 下関, 4,13,2023.

畠山 金太

- 1) 池田善彦. 心アミロイドーシス診断のピットフォール. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 2) Yoshihiko Ikeda. Differential diagnosis of the secondary cardiomyopathies including amyloidosis. International Symposium on Triglyceride/Neutral Lipid and Rare Diseases, Kyoto, 10,16,2023.

河野 和

- 1) 河野和, 増田豪, 大口裕人, 藤原志保, 白俊哲, 西村直, 安永純一郎. プロテオミクスによるALアミロイドーシス単クローン性形質細胞の解析. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.

山本 卓

- 1) 山本卓. CKD ステージ G5 の腎臓リハビリテーション保存期から透析期. 第14回日本腎臓リハビリテーション学会, 3, 16, 2024
- 2) 山本卓. リハビリを安全かつ効果的に行うための慢性腎臓病の合併症管理. CKD-MBD. 第14回日本腎臓リハビリテーション学会, 3, 16, 2024
- 3) Yamamoto S, Niihata K, Toida T, Abe M, Hanafusa N, Kurira N. Frailty in dialysis patients

surviving more than 40 years is common and severe: a nationwide study. *Kidney Week* 2023, 11, 3, 2023

- 4) 山本卓. 透析アミロイドーシス発症に、患者血清アルブミン濃度が関与しているという臨床的・蛋白質科学的研究. 第10回日本アミロイドーシス学会, 9, 23, 2023
- 5) 山本卓. 透析患者における骨粗鬆症診断の Pros & Cons —骨生検は不要という立場から—. 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 6, 16, 2023

坂井 健二

- 1) 坂井健二, 山田翔太, 樋口陽. 脳微小出血を認めた脳梗塞症例の検討. 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, .31-6.3, 2023.
- 2) Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K. Effects of Melissa officinalis extract on cognition in older adults. 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 5.31-6.3, 2023.
- 3) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K. CSF biomarkers and A β elimination from the brain in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会/第66回日本神経化学学会大会 合同大会, 神戸, 7.6-8, 2023.
- 4) 坂井健二, 山田正仁. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症とARIA. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会/第66回日本神経化学学会大会 合同大会, 神戸, 7.6-8, 2023.
- 5) 坂井健二, 山田翔太, 樋口陽. 脳梗塞における微小出血や脳表へモジデリン沈着の検討. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9.23, 2023.
- 6) 坂井健二. 脳アミロイドアンギオパチー(CAA) : CAA関連炎症とアミロイド関連画像異常(ARIA)を中心に. 第38回秋季日本老年精神医学会. 東京, 10.13-14, 2023.
- 7) 坂井健二, 山田翔太, 樋口陽. 微小出血や脳表へモジデリン沈着を認めた脳梗塞の検討. 第42回日本認知症学会学術集会, 奈良, 11.24-26, 2023.
- 8) 坂井健二. CAAとADの免疫治療: ARIAの病理学的メカニズム. 第42回日本認知症学会学術集会, 奈良, 11.24-26, 2023.
- 9) 坂井健二, 樋口陽, 荒川泰明, 関谷政雄. 血管壁のsplittingがみられたもののA β 40主体の沈着でアミロイド染色陰性であったA β 型CAA

関連脳出血の1例. 第47回上信越神経病理懇談会, 前橋, 12.2, 2023.

猪又 孝元

- 1) 猪又孝元. 心アミロイドーシス診療はどこへ向かうのか. 第268回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 6.17, 2023.

三木 浩和

- 1) Hirokazu Miki, Hiroki Takanari, Shin-ichiro Yanagiya, Saki Saijo, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Mamiko Takahashi, Tomoko Maruhashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, Shingen Nakamura, Yoshimi Bando, Koichi Tsuneyama and Masahiro Abe Raman spectroscopy with principal component analysis for rapid diagnosis of cardiac amyloidosis, 第85回日本血液学会学術集会, 東京, 10.13-15, 2023.
- 2) 三木浩和, 中村信元, 西條早希, 前田悠作, 住谷龍平, 大浦雅博, 曾我部公子, 高橋真美子, 丸橋朋子, 原田武志, 藤井志朗, 安倍正博 超音波エラストグラフィを用いた肝臓アミロイドーシスに対する非侵襲的診断法 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9.23, 2023.
- 3) 三木浩和, 中村信元, 高成広起, 柳谷伸一郎 ラマン分光法を用いたアミロイドーシスに対する新規迅速診断法の開発 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9.23, 2023.
- 4) Hirokazu Miki, Hiroki Takanari, Shin-ichiro Yanagiya, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Mamiko Takahashi³, Tomoko Maruhashi³, Takeshi Harada³, Shiro Fujii³, Shingen Nakamura⁴, Yoshimi Bando⁵, Koichi Tsuneyama⁶, Masahiro Abe³ Development of a novel technique for rapid diagnosis of AL amyloidosis by Raman spectroscopy. 第48回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5.26-28, 2023.
- 5) Ryohei Sumitani, Shingen Nakamura, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Mamiko Takahashi, Tomoko Maruhashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, Hirokazu Miki, Masahiro Abe Efficacy and safety of daratumumab plus CyBOR-D therapy for relapsed or refractory primary systemic light chain amyloidosis in our hospital. 第48回日本骨髄腫学会学術集会, 東京, 5.26-28, 2023.

加藤 修明

- 1) 吉澤魁, 望月祐介, 高曽根健, 小平農, 加藤修明, 関島良樹. ダラツムマブが奏効した非分泌型多発性骨髄腫に伴うPOEMS症候群の40代男性例. 第64回 日本神経学会学術大会, 千葉県, 6,3,2023.
- 2) 澤田美乃里, 奥村学, 高曽根健, 加藤修明, 関島良樹. 内頸動脈狭窄症を合併したPOEMS症候群の54歳男性例. 第246回 日本神経学会 関東・甲信越地方会, 東京, 9,2,2023.
- 3) 加藤修明, 高曽根健, 関島良樹. 進行期全身性ALアミロイドーシス患者に対するDCyBorD療法の効果. 第10回日本アミロイドーシス学会学術集会, 高知, 9,23,2023.
- 4) 浅見雄司, 池田健太郎, 佐藤充人, 加藤修明, 稲田雅弘, 新井修平, 中島公子, 下山伸哉. 心アミロイドーシスとの鑑別に難渋した拘束型心筋症の一例. 第32回 日本小児心筋疾患学会・第42回日本小児循環動態研究会, 北海道, 10,28,2023.
- 5) 有村忠聰, 毛利紀之, 宮崎碧, 平田哲夫, 岡本芽美, 出石礼仁, 小牧智, 佐藤充人, 加藤修明, 加藤誠也, 三浦伸一郎. 臨床病理相関に疑義を生じた心アミロイドーシスの2症例について. 第45回 心筋生検研究会学術集会, 新潟県, 11,18,2023

H. 知的財産の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
関島良樹	アミロイドーシス	鈴木則宏	最新ガイドラインに基づく神経疾患診療指針 2023-2024	総合医学社	東京	2023	261-266
関島良樹	野生型ATTRアミロイドーシスによる手根管症候群	鈴木則宏、荒木信夫、宇川義一、桑原聡、塩川芳昭	Annual Review of Neurology 2023	中外医学社	東京	2023	245-251
関島良樹	アミロイドニューロパチー	榊原隆次	神経因性膀胱ベッドサイドマニュアル改訂第2版	中外医学社	東京	2023	321-326
飯田真介	多発性骨髄腫、ALアミロイドーシス	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針2024 私はこう治療している	医学書院	東京	2024	696-698
小池春樹	アミロイドニューロパチー	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針 2024年版	医学書院	東京	2024	1006-1007
小池春樹	末梢神経疾患 (Charcot-Marie-Tooth病)	久留聡	筋疾患の骨格筋画像アトラス	医学書院	東京	2023	186-188
小池春樹	薬剤性・中毒性ニューロパチー	北川一夫、青木正志、小林俊輔	脳神経疾患最新の治療2024-2026	南光堂	東京	2023	252-254
山田俊幸	生化学検査、蛋白	高木康、山田俊幸、大西宏明	標準臨床検査医学	医学書院	東京	2023	77-92
小野賢二郎	アルツハイマー病	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針 2023年版	医学書院	東京	2023	946-947
篠原もえ子、小野賢二郎	認知症	矢富裕、山田俊幸(監)、下澤達雄、佐藤健夫、松井啓隆、長尾美紀(編)	今日の臨床検査2023-2024	南江堂	東京	2023	38

稗田宗太郎, 小野賢二郎	Alzheimer型認知症	藤村昭夫 (監)藤本茂(編)	神経診療がわかる現場の教科書 診るロジックと薬の使い方	じほう	東京	2023	110-120
中野博人, 小野賢二郎	アミロイド関連画像異常(ARIA)	鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭	Annual Review 神経 2024	中外医学社	東京	2024	84-88
北岡裕章	疾患ごとの薬物治療の方針について理解する 心筋症(拡張型/肥大型心筋症・心アミロイドーシスなど)	池田隆徳	Heart View	メジカルビュー社	東京	2023	1342
遠藤仁	心アミロイドーシスの診断と治療		難病と在宅ケア第29巻6号	日本プランニングセンター	千葉	2023	37-40
遠藤仁	今日の治療指針 2024	福井次矢, 高木誠, 小室一成	心アミロイドーシス	医学書院	東京	2024	
山本卓	透析アミロイド骨関節症 病態と診断		臨牀透析	日本メディカルセンター	東京	2024	89-94
山本卓, 青池郁夫	膜の性能を最大限に引き出す透析方法は?		透析フロンティア	メディカルレビュー社	東京	2023	10-12
山本卓	高P血症、低P血症	福井次矢	今日の治療指針2024年版	医学書院	東京	2024	647-649
山本卓	骨評価 骨代謝マーカーと骨密度測定の限界		腎と透析	東京医学社	東京	2023	325-330
山本卓	CKD-MBDの病態		泌尿器外科	医学図書出版	東京	2023	1285-1289
坂井健二	脳アミロイドアングリオパチー	新井信隆	非腫瘍性疾患病理アトラス 中枢神経	文光堂	東京	2024	62-65
猪又孝元	超高齢者の心アミロイドーシスは治療すべきか?	原田和昌	高齢者循環器診療のすべて	日本医事新報社	東京	2024	116-118

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Adams D, Sekijima Y, Conceição I, Waddington-Cruz M, Polydefkis M, Echaniz-Laguna A, Reilly MM	Hereditary transthyretin amyloid neuropathies: advances in pathophysiology, biomarkers, and treatment	Lancet Neuro	22 (11)	1061-1074	2023
Adams D, Tournev I, Taylor MS, Coelho T, Planté-Bordeneuve V, Berk JL, González-Duarte A, Gillmore JD, Low SC, Sekijima Y, Obici L, Chen C, Badri P, Arum S, Vest J, Polydefkis M; HELIOS-A Collaborators	Efficacy and safety of vutrisiran for patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: a randomized clinical trial	Amyloid	30 (1)	1-9	2023
Ando Y, Waddington-Cruz M, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Konishi H, Ishii T, Coelho T.	Optimal practices for the management of hereditary transthyretin amyloidosis: real-world experience from Japan, Brazil, and Portugal	Orphanet J Rare Dis	18 (1)	323	2023
Beck G, Yonenobu Y, Kawai M, Ikenaka K, Sera F, Ozono T, Shimada Y, Yamashita R, Sakata Y, Morii E, Yoshinaga T, Ando Y, Murayama S, Mochizuki H	RNA interference in late-stage hereditary transthyretin amyloidosis: a clinicopathological study	J Neurol	270 (9)	4544-4548	2023
Fuchida S, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C	A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee	Int J Hematol	118 (4)	443-449	2023
Kitahara J, Yoshinaga T, Kakihara S, Hirano T, Imai A, Miyahara T, Yazaki M, Sekijima Y, Murata T	Ocular findings in patients with acquired ATTRv amyloidosis following domino liver transplantation	PLoS One	18(9)	e0291716	2023
Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y	Treatment response to Tafamidis qualitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy	J Nucl Cardiol	30(1)	403-404	2023

Maurer MS, Kale P, Fontana M, Berk JL, Grogan M, Gustafsson F, Hung RR, Gottlieb RL, Damy T, González-Duarte A, Saraswat N, Sekijima Y, Tahara N, Taylor M S, Kubanek M, Donald E, Palecek T, Tsujita K, Tang WHW, Yu WC, Obici L, Simões M, Fernandes F, Poulsen SH, Diemberger I, Perfetto F, Solomon SD, Di Carli M, Badri P, White MT, Chen J, Yureneva E, Sweetser MT, Jay PY, Garg PP, Vest J, Gillmore JD; APOLLO-B Trial Investigators	Patisiran Treatment in Patients with Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	N Engl J Med	389(17)	1553-1565	2023
Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawais Hayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y	Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis	Amyloid	30(3)	321-326	2023
Oguchi K, Katoh N, Mochizuki Y, Takahashi Y, Ueno A, Takasone K, Sekijima Y	Reduction of cardiac AL amyloid deposition after complete response visualised by PiB-PET imaging	Amyloid	30(1)	138-139	2023
Sato M, Mochizuki Y, Takahashi Y, Takasone K, Aldinc E, Ticaou S, Jia G, Sekijima Y	Neurofilament light chain as a biomarker for monitoring response to change in treatment in hereditary ATTR amyloidosis	Amyloid	30(3)	351-352	2023
Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikeyama T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasquez SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J	Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA	Ann Hematol	102(4)	863-876	2023

Takahashi Y, Oguchi K, Mochizuki Y, Takasone K, Ezawa N, Matsushima A, Katoh N, Yazaki M, Sekijima Y	Distribution and progression of cerebral amyloid angiopathy in early-onset V30M (p.V50M) hereditary ATTR amyloidosis	Amyloid	30(1)	109-118	2023
Tsai FJ, Nelson LT, Klaine GM, Jäger M, Berlyetkin JL, Sekijima Y, Powers ET, Kelly JW	Characterising diflunisal as a transthyretin kinetic stabilizer at relevant concentrations in human plasma using subunit exchange	Amyloid	30(2)	220-224	2023
Uehara M, Kuraishi S, Ikegami S, Obara H, Takizawa T, Munkakata R, Hatakenaka T, Kamanaka T, Miyaoaka Y, Sekijima Y, Takahashi J	Cervical myelopathy due to amyloid deposition with accompanying cardiac abnormalities	J Spinal Cord Med	46(4)	697-701	2023
関島良樹	遺伝性ATTRアミロイドーシス（トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー）	CLINICAL NEUROSCIENCE	41(5)	720-724	2023
根本穂高、森文彦、佐藤達朗、吉長恒明、矢崎正英、杉浦彩、江口秀一郎	フィンランド型家族性アミロイドーシスに伴う角膜アミロイドーシスの2家系	日本眼科学會雑誌	125(1)	30-37	2023
関島良樹	ニューロパチー診療の進歩 -核酸医薬を中心に-	日本内科学會雑誌	112 (9)	1654-1661	2023
関島良樹	全身性アミロイドーシスからアルツハイマー病へのimplication	週刊医学のあゆみ	287 (13)	1039-1046	2023
Shimamoto Y, Takahashi N, Katoh N, Matsui Y, Mochizuki Y, Ito M, Yazaki M, Kametani F, Kasuno K, Sekijima Y, Naiki H, Iwano M	Light and heavy chain deposition disease with focal amyloid deposition diagnosed with mass spectrometry: a case report.	BMC Nephrol	24(1)	187	2023
Yamaguchi A, Tasaki M, Ueda M, Ando Y, Naiki H	Epidemiological study of the subtype frequency of systemic amyloidosis based on the Annual of the Pathological Autopsy Cases in Japan.	Pathol Int	74(2)	68-76	2023
Tajima K, Nomura T, Terada T, Okuyama S, Kumagai H, Maeda K, Ogata S, Naiki H	Solitary follicular lymphoma with plasmacytic differentiation associated with localized AL amyloidosis in the jejunum.	Ann Hematol	102(6)	1625-1627	2023
堂本裕加子, 内木宏延	アミロイドーシスと質量分析イメージング	医学のあゆみ	287(9)	715-721	2023

Takahashi K, Hiratsuka Y, Sasaki D, Sakae T, Enomoto D, Morioka H, Uemura S, Okura T, Ikeda S, Kono T, Iwamura T, Yamamura N, Kitazawa S, Ueda M.	Technetium-99m-pyrophosphate imaging-based computed tomography-guided core-needle biopsy of internal oblique muscle in wild-type transthyretin cardiac amyloidosis	Amyloid	31(1)	12-21	2024
Sunami K, Fuchida S, I, Suzuki K, Ri M, Matsumoto M, Shimazaki C, Asaoku H, Shibayama H, Ishizawa K, Takamatsu H, Ikeda T, Maruyama D, Imada K, Uchiyama M, Kiguchi T, Iyama S, Murakami H, Onishi R, Tada K, Iida S	Anti-CD38 antibody isatuximab monotherapy for Japanese individuals with relapsed/refractory multiple myeloma: An update of the phase 1/2 ISLAND study	Hematol Oncol	41	442-452	2023
Shimazaki C, Maegawa S, Kimoto-Matsumura Y, Ota-Kuwabara S, Ide D, Fuchida SI, Hatsuse M	The serum level of plasmin-alpha2 plasmin inhibitor complex (PIC) is useful for differentiating cardiac light chain amyloidosis from transthyretin amyloidosis	Br J Haematol	202(6)	1209-1212	2023
Shimura Y, Shibayama H, Nakaya A, Yamamura R, Imada K, Kaneko H, Hanamoto H, Fuchida SI, Tanaka H, Kosugi S, Kiyota M, Matsui T, Kanda J, Iida M, Matsuda M, Uoshima N, Shibano M, Karasuno T, Hamada T, Ohta K, Ito T, Yagi H, Yoshihara S, Shimazaki C, Nomura S, Hino M, Takaori-Kondo A, Matsumura I, Kanakura Y, Kuroda J	Real-world data on induction therapy in patients with transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma: retrospective analysis of 598 cases from Kansai Myeloma Forum	Int J Hematol	118(5)	609-617	2023

Shimazu Y, Kanda J, Kosugi S, Ito T, Kameyama H, Imada K, Shimura Y, Fuchida S, I, Fukushima K, Tanaka H, Yoshihara S, Ohta K, Uoshima N, Yagi H, Shibayama H, Yamamura R, Tanaka Y, Uchiyama H, Onda Y, Adachi Y, Hanamoto H, Takahashi R, Matsuda M, Miyoshi T, Takakuwa T, Hino M, Hosen N, Nomura S, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Kuroda J	Efficacy of elotuzumab for multiple myeloma in reference to lymphocyte counts and kappa/lambda ratio or B2microglobulin	Sci Rep	13(1)	5159	2023
Nakaya A, Shibayama H, Uoshima N, Yamamura R, Yoshioka S, Imada K, Shimura Y, Hotta M, Matsui T, Kosugi S, Hanamoto H, Uchiyama H, Yoshihara S, Fuchida SI, Onda Y, Tanaka Y, Ohta K, Matsuda M, Kanda J, Yokota A, Kiyota M, Kawata E, Takahashi R, Fukushima K, Tanaka H, Yagi H, Takakuwa T, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Hino M	Impact of cytogenetic abnormalities in asymptomatic multiple myeloma; a Japanese real-world analysis from Kansai Myeloma Forum.	Leuk Res Rev	20	100395	2023
Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, Hashimoto H, Nishitarumi zu N, Kato Y, Kawai A, Matsunaga N, Ebina T, Nakamura T, Marumo Y, Oiwa K, Kinoshita S, Narita	Humoral and cellular immune response to second and third SARS-CoV-2 mRNA vaccination in patients with polyclonal plasma cell dyscrasia.	Cancer Med.	12(12)	13135-13144	2023

Shibayama H, Itagaki M, Handa H, Yokoyama A, Saito A, Kosugi S, Ota S, Toshimatsu M, Tanaka Y, Kurahashi S, Fuchida S, Iino M, Shimizu T, Moriuchi Y, Toyama K, Mitani K, Tsukune Y, Kada A, Tamura H, Abe M, Iwasaki H, Kuroda J, Takamatsu H, Sunami K, Kizaki M, Ishida T, Saito T, Matsumura I, Akashi K, Iida S.	Primary analysis of prospective cohort study of Japanese patients with plasmacytoma cell neoplasms in novel drug era (2016-2021).	Int J Hematol		Published online on Mar 29	2024
Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M, Takamori A, Furukawa T, Ide T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Koike H, Irie H, Abe T	Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is associated with malignant brain edema.	J Neurointerv Surg			in press
Ide T, Goto Y, Nishihara M, Eriguchi M, Koike H	Co-occurrence of subacute combined degeneration of the spinal cord and neuromyelitis optica spectrum disorder.	Acta Neurol Belg			in press
Mouri N, Koike H, Fukami Y, Takahashi M, Yagi S, Furukawa S, Suzuki M, Kishimoto Y, Murate K, Nukui T, Yoshida T, Kudo Y, Tada M, Higashiyama Y, Watanabe H, Nakatsuji Y, Tanaka F, Katsuno M	Granuloma, vasculitis, and demyelination in sarcoid neuropathy.	Eur J Neurol	31(1)	e16091	2024
Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Ouchida J, Murakami A, Iida M, Yokoi S, Hashizume A, Iguchi Y, Imagama S, Katsuno M	Autoantibodies Against Dihydropyridimide S-Acetyltransferase in Immune-Mediated Neuropathies.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm	11(2)	e200199	2024
Nakane S, Koike H, Hayashi T, Nakatsuji Y	Autoimmune Autonomic Neuropathy: From Pathogenesis to Diagnosis.	Int J Mol Sci	25(4)	2296	2024
Kazuta T, Murakami A, Noda S, Hirano S, Kito H, Tsujikawa K, Nakanishi H, Kimura S, Sahashi K, Koike H, Katsuno M	Clinicopathological features of graft versus host disease-associated myositis.	Ann Clin Transl Neurol	11(2)	508-519	2024

Wada T, Doi H, Okubo M, Tada M, Ueda N, Suzuki H, Tomimaga W, Koike H, Ko miya H, Kubota S, Hashiguchi S, Nakamura H, Takahashi K, Kunii M, Tanaka K,	RNA Foci in Two bi-Allelic RFC1 Expansion Carriers.	Ann Neurol	95(3)	607-613	2024
Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M	Neutrophil extracellular traps: from antimicrobial innate immunity to the development of chemotherapy-induced peripheral neuropathy.	EBioMedicine	90	104526	2023
Ohyama K, Koike H, Tanaka M, Nosaki Y, Yokoi T, Iwai K, Katsuno M	A Bioelectrical Impedance Analysis for the Assessment of Muscle Atrophy in Patients with Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy.	Intern Med	62(9)	1273-1278	2023
Fukushima T, Ikeda S, Tomita M, Mori Y, Fukami Y, Koike H, Katsuno M, Ogata H, Isobe N, Hattori N	Demyelinating Neuropathy with Markedly Elevated Serum IgG4 Levels and Anti-Contactin 1 IgG4 Antibody.	Intern Med	62(9)	1341-1344	2023
Ando Y, Waddington-Cruz M, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Konishi H, Ishii T, Coelho T	Optimal practices for the management of hereditary transthyretin amyloidosis: real-world experience from Japan, Brazil, and Portugal.	Orphanet J Rare Dis	18(1)	323	2023
Obici L, Ajroud-Driss S, Lin KP, Berk JL, Gillmore JD, Kale P, Koike H, Danese D, Aldinc E, Chen C, Vest J, Adams D; HELIOS-A Collaborators Study Group	Impact of Vutrisiran on Quality of Life and Physical Function in Patients with Hereditary Transthyretin-Mediated Amyloidosis with Polyneuropathy.	Neurol Ther	12(5)	1759-1775	2023
Ando T, Watanabe H, Riku Y, Yoshida M, Goto Y, Ando R, Fujino M, Ito M, Koike H, Katsuno M, Iwasaki Y	Neurogenic intermittent claudication caused by vasculitis in the cauda equina: an autopsy case report.	Eur Spine J	32(7)	2602-2606	2023
小池春樹	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	臨床整形外科	58(9)	1174-1177	2023
小池春樹	免疫介在性ニューロパチーの超微形態学と病態	脳神経内科	99(3)	325-330	2023
小池春樹	好中球と血管内皮の超微形態からみた血管炎性ニューロパチーの病態と治療戦略	Peripheral Neurol	34(1)	63-70	2023
小池春樹	免疫性ニューロパチーの超微形態学：この10年の進歩	Peripheral Neurol	34(2)	200-205	2023

Ryohei K, Sawahata M, Nakayama M, Yamada T, Taniguchi N, Bando M, Hagiwara K	Prevalence of systemic and local risk factors for pulmonary non-tuberculous mycobacterial disease in Japan: a single-institution study	J Rual Med	18(3)	168-174	2023
Momma Y, Tsuji M, Oguchi T, Ohashi H, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Nakamura S, Kiuchi Y, Ono K	The curcumin derivative GT863 protects cell membranes in cytotoxicity by A β oligomers.	Int J Mol Sci	24	3089	2023
Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iiwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K	Effects of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial.	J Alzheimers Dis	91	805-814	2023
Noguchi-Shinohara M, Murakami H, Sakashita Y, Mori Y, Komatsu J, Muramatsu D, Hikishima S, Ono K	Plasma amyloid- β biomarkers are associated with Alzheimer's disease comorbidity in Lewy body disease.	Parkinsonism Relat Disord	111	105445	2023
Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K	Cerebrospinal fluid biomarkers and amyloid- β elimination from the brain in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation.	J Alzheimers Dis	91	1173-1183	2023
Watanabe-Nakayama T, Tsuji M, Umeda K, Oguchi T, Konno H, Noguchi-Shinohara M, Kiuchi Y, Kodera N, Teplow DB, Ono K	Structural dynamics of amyloid- β protofibrils and actions of anti-amyloid- β antibodies as observed by high-speed atomic force microscopy.	Nano Lett	23	6259-6268	2023
Noguchi-Shinohara M, Ono K	The mechanisms of the roles of α -synuclein, amyloid- β , and tau protein in the Lewy body diseases: pathogenesis, early detection, and therapeutics.	Int J Mol Sci	24	10215	2023
小野賢二郎	バイオマーカーや疾患修飾療法の標的としてのA β .	実験医学 (増刊: いま新薬で加速する神経変性疾患研究 異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る)	41	1907-1913	2023
小野賢二郎	認知症の診断と治療—Alzheimer病を中心に—.	神経治療学	40	233-236	2023

小野賢二郎	アルツハイマー病の診断と治療.	日本内科学会雑誌	112	1764-1770	2023
小野賢二郎	アルツハイマー病：疾患修飾へのアプローチ.	北陸神経精神医学雑誌	37	3-6	2023
篠原もえ子, 小野賢二郎	ロスマリン酸含有レモンバーム抽出物の抗Alzheimer病効果に関する臨床試験.	神経治療学	40	401-406	2023
稗田宗太郎, 小野賢二郎	ミスフォールディング病に対する抗体医薬の現状—Alzheimer病・Parkinson病を中心に.	実験医学 (増刊：いま新薬で加速する神経変性疾患研究 異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る)	41	1996-2003	2023
小野賢二郎	レカネマブ.	Current Therapy 2024	42	243	2024
小野賢二郎	アルツハイマー型認知症.	日本医事新報	5210	35-36	2024
中野博人, 小野賢二郎	認知症.	薬事	66	727-731	2024
小野賢二郎	アルツハイマー病に対する新規治療薬—レカネマブ.	Medical Practice	41	644-645	2024
Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y.	Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Nucl Cardiol	30(1)	403-404	2023
Ohe M, Tahara N, Ueda M, Fukumoto Y.	P-wave characteristics and atrium voltage mapping in cardiac amyloidosis with paroxysmal atrial fibrillation.	Eur Heart J Case Rep	7(7)	ytad319	2023

Maurer MS, Kale P, Fontana M, Berk JL, Grogan M, Gustafsson F, Hung RR, Gottlieb RL, Damy T, González-Duarte A, Sarswat N, Sekijima Y, Tahara N, Taylor M S, Kubanek M, Donald E, Palecek T, Tsujita K, Tang WHW, Yu WC, Obici L, Simões M, Fernandes F, Poulsen SH, Diemberger I, Perfetto F, Solomon SD, Di Carli M, Badri P, White MT, Chen J, Yureneva E, Sweetser MT, Jay PY, Garg PP, Vest J, Gillmore JD; APOLLO-B Trial Investigators.	Patisiran Treatment in Patients with Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	N Engl J Med	389(17)	1553-1565	2023
Awaya T, Endo J, Iijima R, Shimoda M, Moroi M.	siRNA therapy improves multimodality imaging in hereditary transthyretin cardiac amyloidosis: a case report.	QJM	117(4)	304-306	2024
Ichihara G, Katsumata Y, Sugiura Y, Matsuo Y, Maeda R, Endo J, Anzai A, Shirakawa K, Moriyama H, Kitakata H, Hiraike T, Goto S, Ko S, Iwasawa Y, Sugai K, Daigo K, Goto S, Sato K, Yamada K, Sueematsu M, Ieda M, Sano M.	MRP1-Dependent Extracellular Release of Glutathione Induces Cardiomyocyte Ferroptosis After Ischemia-Reperfusion.	Circ Res	133(10)	861-876	2023
Miyama H, Katsumata Y, Momoi M, Ichihara G, Fujisawa T, Endo J, Kawakami T, Kataoka M, Yuasa S, Sano M, Sato K, Fukuda K.	Genetic Testing Enables the Diagnosis of Familial Hypercholesterolemia Undiagnosed by Clinical Criteria: A Analysis of Japanese Early-Onset Coronary Artery Disease Patients.	Cardiol Res Pract	2023	2236422	2023
Ikura H, Kitakata H, Endo J.	A Reliable Baton Passing From Orthopedic Surgeon to Cardiologist- Cardiac Screening in Patients With Carpal Tunnel Syndrome for Early Diagnosis of Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy.	Circ J	87(8)	1056-1057	2023
Moriyama H, Endo J.	Pathophysiological Involvement of Mast Cells and the Lipid Mediators in Pulmonary Vascular Remodeling.	Int J Mol Sci	24(7)	6619	2023

Naiki H, Yamaguchi A, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hatakeyama K, Ikeda Y, Hoshii Y, Shintani-Domoto Y, Miyagawa-Hisayashino A, Tsujikawa H, Endo J, Arai T, Ando Y.	Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis.	Amyloid	30(3)	321-326	2023
de Jongh MC, Tsuruta H, Hayashida K, Hase H, Yoshijima N, Saito T, Myojin S, Kobayashi Y, Ryuzaki T, Imaeda S, Shirakawa K, Okada M, Endo J, Shinada K, Itabashi Y, Inohara T, Kohsaka S, Kato J, Takahashi T, Yamazaki M, Shimizu H, Fukuda K.	Right Ventricular Dysfunction in Patients With Concomitant Tricuspid Regurgitation Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Circ J	88(4)	451-459	2024
Kimura M, Kohno T, Shinya Y, Hiraide T, Moriyama H, Endo J, Murata M, Fukuda K.	De-escalation of Oxygen Therapy and Medication in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension After Balloon Pulmonary Angioplasty.	Can J Cardiol	39(5)	637-645	2023
Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A	Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome.	JSES Int	8(2)	349-354	2023
Iijima T, Sawa N, Wake A, Kono K, Kinowaki K, Ubara Y, Ohashi K.	Linear discriminant analysis on electrocardiogram achieved classification of cardiac involvement status in amyloid light-chain amyloidosis.	J Cardiol	82(5)	349-355	2023
Iijima T, Sawa N, Ooba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Ubara Y, Ohashi K.	Cardiac and renal AL amyloidosis controlled by autologous stem cell transplantation for 17 years accompanying late onset atrial fibrillation and complete atrioventricular block.	CEN Case R	12(4)	362-367	2023
Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Yamaguchi K, Nakajima K, Sato M, Kawachi M, Domon M, Goto K, Omori K, Iino N, Shimada H, Aoyagi R, Ei I, Goto S, Goto Y, Gejyo F, Yamamoto T, Narita I.	Mass spectrometry-based proteomic analysis of proteins adsorbed by hexadecyl-immobilized cellulose bead column for the treatment of dialysis-related amyloidosis.	Amyloid			In press

Yamamoto S, Jørgensen HS, Zhao J, Karaboyas A, Komaba H, Vervloet M, Mazzaferro S, Cavalier E, Bieber B, Robinson B, Evenepoel P, Fukagawa M.	Alkaline phosphatase and parathyroid hormone levels: International variations and associations with clinical outcomes in the DOPPS.	Kidney Int Rep				In press
Goto Y, Nakajima K, Yamamoto S, Yamaguchi K.	Supersaturation, a critical factor underlying proteostasis of amyloid fibril formation.	J Mol Biol				In press
Wakamatsu T, Yamamoto S, Matsuo K, Taniguchi M, Hamano T, Fukagawa M, Kazama JJ.	Effectiveness of calcimimetics on fractures in dialysis patients with secondary hyperparathyroidism: Meta-analysis of randomized trials.	J Bone Miner Metab				In press
Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I.	Appropriate anthropometric indices for geriatric nutritional risk index in predicting mortality in older Japanese patients: A comparison of the Lorentz formula and body mass index.	Tohoku J Exp Med				In press
Yamamoto S, Tanaka T, Omori K, Eishi I, Kikuchi K, Konagai A, Goto S, Kitamura N, Narita I.	Pruritus and protein-bound uremic toxins in patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional study.	Clin Kidney J	17 (1)	Safae007		2024
Shirai N, Yamamoto Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Murayama T, Narita I.	Protein intake and its relationship with frailty in chronic kidney disease.	Clin Exp Nephrol				In press
Habuka M, Nishikiori M, Oikawa C, Takahashi M, Sakamaki Y, Ogawa A, Miyajima N, Tanabe Y, Honma K, Wakaki K, Yamamoto S, Narita I.	A case of systemic amyloid A amyloidosis secondary to xanthogranulomatous pyelonephritis.	Intern Med	63 (4)	593-599		2024
Komaba H, Zhao J, Karaboyas A, Yamamoto S, Dasgupta I, Hassan M, Zuo L, Christensson A, Combe C, Robinson BM, Fukagawa M.	Active vitamin D use and fractures in hemodialysis patients: Results from the international DOPPS.	J Bone Miner Res	38 (11)	1577-1585		2023
Yoshida S, Yamamoto S, Miyauchi D, Terashima R, Hashimoto A, Miyazawa H, Tanaka T, Ishizawa M, Tanaka M, Tomita Y, Aoike I, Goto S, Narita I.	Removal of α 1-microglobulin using post-dilution online hemodiafiltration with polymethylmethacrylate membrane: An open-label, single-arm study.	Blood Purif	53 (2)	123-129		2024

Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Sugahara T, Narita I.	Low muscle strength and physical function contribute to falls in hemodialysis patients, but not muscle mass.	Clin Exp Nephrol	28 (1)	67-74	2024
Shirai N, Yamamoto S*, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Narita I.	Dynamic and static balance functions in hemodialysis patients and non-dialysis dependent CKD patients.	Ther Apher Dial	27 (3)	412-418	2023
Shima A, Sakai K, Yamashita F, Hamaguchi T, Kitamoto T, Sasaki M, Yamada M, Ono K	Vacuoles related to tissue neuron-astrocyte ratio and infiltration of macrophages/monocytes contribute to hyperintense brain signals on diffusion-weighted magnetic resonance imaging in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease.	J Neurol Sci	447	120612	2023
Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiritis E, Lu J.	Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA.	Ann Hematol	102(4)	863-876	2023
Kubota Y, Hanaoka Y, Koyama JI, Takahashi Y, Katoh N, Iwawata M, Fujii Y, Ogiwara T, Horiuchi T.	Surgical revascularization for quasi-moyamoya disease associated with polyneuropathy, organomegaly, endocrinopathy, monoclonal gammopathy, and skin changes (POEMS) syndrome: a case report and literature review.	Nagoya J Med Sci	85(1)	141-149	2023
Hanafusa H, Nakamura K, Kamiyo Y, Kitahara M, Ehara T, Yoshinaga T, Aoki K, Katoh N, Yamaguchi T, Kosho T, Sekijima Y.	Lysinuric protein intolerance exhibiting renal tubular acidosis/Fanconi syndrome in a Japanese woman.	JIMD Rep	64(6)	410-416	2023
Ichimata S, Aikawa A, Sugishita N, Kato H, Kametani F, Tagawa H, Handa Y, Yamazaki M, Sekijima Y, Ehara T, Nishida N, Ishizawa S.	Enterocolic granulomatous phlebitis associated with epidermal growth factor-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 deposition and focal amyloid properties: A case report.	Pathol Int	74(3)	146-153	2024
加藤修明	ALアミロイドニューロパチー	Peripheral Nerve 末梢神経	34(1)	6-12	2023

令和6年5月13日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人 信州大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中村 宗一郎 (公印省略)

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 関島 良樹 ・ セキジマ ヨシキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年4月18日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人福井大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 上田 孝典

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 学術研究院医学系部門・教授
(氏名・フリガナ) 内木 宏延・ナイキ ヒロノブ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学、福井大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年4月5日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人熊本大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小川 久雄

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・教授

(氏名・フリガナ) 植田 光晴 ・ ウエダ ミツハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 3 月 21 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター

所属研究機関長 職 名 院 長

氏 名 水野 敏樹

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医局・名誉院長
(氏名・フリガナ) 島崎 千尋・シマザキ チヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 3 月 7 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人 名古屋市立大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 郡 健二郎

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬学総合研究院 (医学) 教授
(氏名・フリガナ) 飯田 真介 (イイダ シンスケ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年 3月 27日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 佐賀大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 兒玉 浩明

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部 教授
(氏名・フリガナ) 小池 春樹・コイケ ハルキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	佐賀大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 3 月 5 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 東京女子医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 丸 義朗

次の職員の令和 5 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 星野 純一・ホシノ ジュンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 :)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関 :)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 :)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容 :)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年3月11日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 自治医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 永井 良三

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 山田 俊幸 (ヤマダ トシユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 2 月 15 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 道後温泉病院

所属研究機関長 職名 院長

氏名 奥田 恭章

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 内科・院長

(氏名・フリガナ) 奥田 恭章 (オクダ ヤスアキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: COI委員会が未設置のため)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 信州大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年4月1日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 和田 隆志

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬保健研究域医学系・教授

(氏名・フリガナ) 小野 賢二郎・オノ ケンジロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年3月29日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 高知大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 櫻井 克年

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 教育研究部医療学系臨床医学部門・教授
(氏名・フリガナ) 北岡 裕章 ・ キタオカ ヒロアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口をチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 久留米大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 内村 直尚

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 田原 宣広・タハラ ノブヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	久留米大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 慶應義塾大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 伊藤 公平

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・専任講師

(氏名・フリガナ) 遠藤 仁・エンドウ ジン

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学医学部	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 2 月 5 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京医科歯科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 田中 雄二郎

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯学総合研究科 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 大橋 健一 ・ オオハシ ケンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京医科歯科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立循環器病研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 大津欣也

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院病理部・部長

(氏名・フリガナ) 畠山金太・ハタケヤマキンタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立循環器病研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年4月2日

国立保健医療科学院長
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 日本赤十字社医療センター

所属研究機関長 職名 院長

氏名 中島 淳

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働科学研究事業（難治性疾患政策研究事業）

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 骨髄腫アミロイドーシスセンター 顧問

(氏名・フリガナ) 鈴木 憲史 (スズキ ケンシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	日本赤十字社医療センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 熊本大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小川 久雄

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・助教
(氏名・フリガナ) 河野 和 ・ カワノ ヤワラ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口チェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年 3月 31日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人新潟大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 牛木 辰男

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医歯学総合病院血液浄化療法部・准教授
(氏名・フリガナ) 山本卓・ヤマモトスグル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 3 月 8 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 新潟県厚生農業協同組合連合会
上越総合病院
所属研究機関長 職名 病院長
氏名 籠島 充

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 神経内科 部長
(氏名・フリガナ) 坂井 健二 (サカイ ケンジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	上越総合病院	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 信州大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6 年 3 月 29 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人新潟大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 牛木 辰男

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯学総合研究科 循環器内科学・教授
(氏名・フリガナ) 猪又 孝元 ・イノマタ タカユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 徳島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 河村 保彦

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院・講師
(氏名・フリガナ) 三木 浩和・ミキ ヒロカズ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年5月13日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人 信州大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中村 宗一郎 (公印省略)

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・准教授 (特定)

(氏名・フリガナ) 加藤 修明 ・ カトウ ナガアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。